

2024 年度 病 院 年 報

独立行政法人国立病院機構

岩国医療センター



巻 頭 言

この一年を振り返り、2024年度の岩国医療センターでの診療や研究の成果を、この年報にまとめました。日々の現場で積み重ねてきた努力が、こうして一冊の形になったことを心より感謝申し上げます。

当院は山口県東部の医療圏において、高度急性期医療をはじめ、地域周産期母子医療センターやへき地中核病院としての役割を担ってきました。救急対応から出産や子育ての支援に至るまで、市民の皆さまが安心して暮らせるよう、地域の医療機関や行政と力を合わせて取り組んでいます。

その基盤となっているのが「人を作り、人を育てる」という取り組みです。岩国看護学校の学生や、新たに仲間に加わった職員の成長は、地域医療の未来を支える大きな力です。また、臨床研究を医療の発展へとつなげていくことや、市民講座を通じて、学びを地域に還元することも大切にしています。

医療を取り巻く環境は決して容易ではありませんが、これからも質の高い医療をめざし、地域の皆さまから愛され、信頼される病院であり続けたいと考えています。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構岩国医療センター
院長 田中屋 宏爾

■2024 年度病院年報

診療科紹介

内科	2
消化器内科	3
肝臓内科	4
呼吸器内科	5
循環器内科	6
腎臓内科	7
糖尿病・内分泌内科	8
血液内科	9
小児科	10
小児循環器科	11
外科	12
胸部外科	13
整形外科	14
形成外科	15
脳神経外科	16
心臓血管外科	17
小児外科	18
皮膚科	19
泌尿器科	20
産科	21
婦人科	22
眼科	23
耳鼻咽喉科	24
救急科	25
放射線科	26
麻酔科	27
病理診断科	28

各部門活動報告

薬剤部	30
臨床検査科	32
放射線科	37

リハビリテーション科	4 0
栄養管理室	4 2
看護部	
5 階西病棟	4 4
5 階東病棟	4 5
6 階西病棟	4 6
7 階西病棟	4 7
7 階東病棟	4 8
8 階西病棟	4 9
8 階東病棟	5 0
9 階西病棟	5 1
9 階東病棟	5 2
1 0 階西病棟	5 3
1 0 階東病棟	5 4
ICU	5 5
NICU	5 6
外来	5 7
手術室	5 8
地域医療連携室	5 9
入退院センター	6 0

研究活動業績

論文	6 2
学会発表・講演等	6 6
特定臨床研究	8 0
臨床研究	8 2
院内研究	8 4
治験等	8 6
特定使用成績調査	8 7
使用成績調査	8 8
副作用報告	8 9
その他の研究	8 9

【診療科紹介】

診療科名： 内科

当院内科は、各臓器別専門診療科での区分に該当しない領域ないしは臓器横断的な疾患を有する患者さんについて、外来、入院において診療を行っています。

外来初診では、紹介状のない患者さんで、どの診療科を受診したらよいのかわからない方や、紹介いただくにあたって、院外の先生が診療科の特定に難渋された場合、院内の他科からの紹介、あるいは救急受診後の経過観察、精査目的の紹介などが該当します。分野を特定できない「内科」のくくりで対応を開始しても精査の結果、院内の専門診療科での治療が必要となればその科へ転科になる場合も多く、また同じ内科領域であっても、当院で専門家が不在のためカバーできない分野に関しては、他院へ紹介することも多く見られます。下記のDPC統計上の診療実績において、内科系のみならず、外科系疾患の診断名や治療実績が見られますのは、上記の理由からとなっております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	3,664	1,318	175
平均患者数	10.0	3.6	0.5
平均在院日数	4.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
徐脈性不整脈	20
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	10
アルコール性肝障害	9
その他の循環器の障害	6
肺の悪性腫瘍	6
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	5
破裂性大動脈瘤	5
非ホジキンリンパ腫	5
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	4
解離性大動脈瘤	4
全体	185

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） （選択的動脈化学塞栓術）	2
骨折観血的手術（大腿）	1
鼻腔粘膜焼灼術	1
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
131	54	185	70.8%	99	53.5%

診療科名： 消化器内科

当科においては、内視鏡を用いた消化管及び胆膵疾患の診断・治療を少数精鋭(7名)で行っています。

全例NBI拡大機能を搭載した最新スコープシステムによる検査、EMR/ESD、ステント留置、胆管結石除去、止血、PEGなど基本的な内視鏡の診断・治療のみならず、EUS-FNAを応用したEUS-BDや十二指腸腫瘍に対するUEMR、外科医と共同のLECS等、最新の治療手技にも取り組んでいます。

とくに胆膵関連は山口県下ではトップクラスの症例数(年間約800件)をこなしています。また、当院は山口県東部の中核病院であり、救命救急センターも有しているため、緊急内視鏡の件数が多く、年間約200件を24時間体制でこなしています。

胃内視鏡は、ほぼ全例に鎮静で行っており、患者さんに優しい、苦痛のない内視鏡を心がけています。

また当科は日本消化器病学会ならびに日本消化器内視鏡学会の認定指導施設として今後も必要性が高まる内視鏡医の育成にも力を入れています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	14,162	902	1,324
平均患者数	38.7	2.5	3.6
平均在院日数	12.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
胆管(肝内外)結石、胆管炎	198
膵臓、脾臓の腫瘍	129
胃の悪性腫瘍	116
小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	87
結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	70
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	66
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	59
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	53
腎臓又は尿路の感染症	47
胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄(穿孔を伴わないもの)	39
全体	1,391

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
内視鏡的胆道ステント留置術	138
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	97
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	64
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	54
早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	39
内視鏡的消化管止血術	39
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル以上	31
小腸結腸内視鏡的止血術	29
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	28
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	24
内視鏡的膵管ステント留置術	24

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,143	248	1,391	82.2%	238	17.1%

診療科名： 肝臓内科

国立病院機構岩国医療センターは山口県東部に位置した基幹病院です。これまで我々肝臓内科は肝臓専門医2名で対応させて頂いていたのですが、2025年4月より1名となりました。毎週岡山大学病院から肝臓専門医を招いて診療をさせて頂いております。しかし常勤医師が1名になったことで、これまでのような診療が難しくなっております。

特に肝臓癌や慢性肝不全に対する治療に関しては常勤医師の人数の問題もあり、これまでの様にはできなくなりました。しかしながら当院消化器科・外科とも連携し、かつ他の医療機関とも連携しながら肝疾患の診療を行っていく所存であります。ただしC型肝炎の治療や肝障害などの精査であるエコー下肝生検はできる限り行っていく予定です。できるだけこれまでの医療サービスの提供に支障がないように心がけておりますが、完全なサービスの回復には人員の確保が必要です。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	922	36	54
平均患者数	2.5	0.1	0.1
平均在院日数	20.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	22
腎臓又は尿路の感染症	9
肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む。）	4
肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	3
慢性肝炎（慢性C型肝炎を除く。）	3
その他の消化管の障害	2
胆管（肝内外）結石、胆管炎	2
敗血症	2
アルコール性肝障害	2
化膿性関節炎（下肢）	1
全体	56

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） （選択的動脈化学塞栓術）	15
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	2
内視鏡的胆道ステント留置術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
48	8	56	85.7%	13	23.2%

診療科名： 呼吸器内科

呼吸器内科は2024年9月末に西井医師が退職しアメリカのMDアンダーソンがんセンターへ留学いたしました。10月より西達也医師が赴任しております。また後期レジデントとして4月からは白羽慶祐医師が、10月からは山下真弘医師が入職しております。

診療面では入院患者の半数は肺癌となっており、その他に肺炎、胸膜炎、間質性肺炎、誤嚥性肺炎、非結核性抗酸菌症、肉腫等の治療を行っております。

肺癌に対して細胞障害性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、単剤または併用での化学療法を行っております。周術期の治療として免疫チェックポイント阻害薬や、分子標的薬の使用が可能になり、抗がん薬の適応範囲が広がっております。肺癌の分野では毎年のように新規抗がん剤が発売され、新規治療レジメンが増えております。これらの新規治療をいち早く患者様にお届けできるように準備を整えております。

研究面では国立がん研究センター東病院のLC-SCRUM Asia研究に積極的に参加しており、また新規抗がん剤の治験も実施しております。その成果として多数の論文は発表しております。

また地域の癌ゲノム診療連携病院として、包括的がんゲノムプロファイリング検査を行っております。今後とも宜しくお願いいたします。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	18,032	945	1,284
平均患者数	49.3	2.6	3.5
平均在院日数	16.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肺の悪性腫瘍	676
肺炎等	131
誤嚥性肺炎	107
間質性肺炎	104
その他の感染症（真菌を除く。）	79
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	37
慢性閉塞性肺疾患	30
喘息	22
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	13
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	12
全体	1,396

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（四肢）	4
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	4
骨折観血的手術（大腿）	3
経皮的脳血栓回収術	2
気管支異物除去術（直達鏡）	2
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（四肢）	2
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	2
関節脱臼非観血的整復術（肩）	1
内視鏡下脳内血腫除去術	1
気管切開術	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,123	273	1,396	80.4%	271	19.4%

診療科名： 循環器内科

[診療体制]

2025年度は循環器内科医師11名（統括診療部長：片山、医長：田中屋、川本、和田、大塚、および、今村、越智、平原、高原、湖山）の診療体制となっています。24時間365日の循環器救急に対応しており、循環器内科医師が常時当直していますので、即時対応が可能です。また、内科、循環器、カテーテル治療、不整脈、エコー検査の各専門医が揃っており、それぞれの研修施設となっております。

[診療の特色]

2024年度の循環器内科の全入院患者数1692人のうち、救急搬送後の緊急入院は488人（全入院の28.8%）でした。入院上位の疾患（手術）としては、心不全、虚血性心疾患および急性心筋梗塞（冠動脈カテーテル治療）、不整脈疾患（アブレーション、ペースメーカー、左心耳閉鎖術）、閉塞性動脈疾患（血管内治療）、慢性腎不全（シャント血管形成術）であり、各手術件数もそれぞれ前年と比較して同程度となっています。また、心不全に対して最新ガイドラインに基づく治療方針を心がけております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	17,243	1,538	1,639
平均患者数	47.1	4.2	4.5
平均在院日数	10.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
心不全	384
頻脈性不整脈	352
狭心症、慢性虚血性心疾患	238
睡眠時無呼吸	117
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	108
徐脈性不整脈	82
閉塞性動脈疾患	56
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	53
脳梗塞	32
その他の感染症（真菌を除く。）	27
全体	1,692

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	222
経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの	69
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	65
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	56
経皮的カテーテル心筋焼灼術 その他のもの	54
四肢の血管拡張術・血栓除去術	50
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 初回	35
経皮的冠動脈ステント留置術 不安定狭心症に対するもの	21
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 高速回転式経皮経管アテレクトミー	19
経皮的冠動脈形成術 その他のもの	14

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,473	219	1,692	87.1%	488	28.8%

診療科名： 腎臓内科

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	848	96	103
平均患者数	2.3	0.3	0.3
平均在院日数	8.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	61
敗血症	7
急性腎不全	6
ネフローゼ症候群	5
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	5
その他の感染症（真菌を除く。）	2
急性膵炎	2
胸水、胸膜の疾患（その他）	2
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	2
高血圧性疾患	2
全体	110

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	1
連続携帯式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	1
試験開腹術	1
経尿道的尿管ステント留置術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
93	17	110	84.5%	14	12.7%

診療科名： 糖尿病・内分泌内科

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数			
平均患者数			
平均在院日数		-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏迷	12
2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	11
腎臓又は尿路の感染症	1
以下、余白	以下、余白
全体	24

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	2
網膜光凝固術（通常）	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
16	8	24	66.7%	7	29.2%

診療科名： 血液内科

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	5	4	3
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数	1.4	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
非ホジキンリンパ腫	3
以下、余白	以下、余白
全体	3

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
2	1	3	66.7%	0	0.0%

診療科名： 小児科

小児科の診療地域は岩国市・和木町・広島県大竹市が基本で、柳井市、周防大島町からも受診されます。重症例の紹介は同地域の開業の医師から、精査が必要な疾患は山口県内の他の地域からも紹介されます。山口県は乳幼児から小児期の福祉医療の充実を図っている地域で、その中で小児科医が行う2週間健診、1か月健診、1歳健診、おたふく風邪予防接種2回接種を公費で行い当院でも積極的に取り組んでいます。

外来は出生した児の外来フォロー、成長障害、内分泌・骨系統疾患、てんかんなどの慢性疾患、小児循環器疾患（先天性心疾患、川崎病、不整脈）の治療フォローを行っています。神経発達症の診療に関しては、臨床心理士による心理検査、脳波・MRIなどの検査を行い、外来で作業・音楽・言語療法を施行しています。岩国市療育センターとの連携の元、神経発達症児の育つ環境の醸成を図っています。過眠症・睡眠障害に関しては、睡眠専門施設と連携の元、投薬診療を行っています。

入院は1年間で 1型糖尿病発症3名を含む糖代謝異常11名、悪性新生物2名、骨内分泌疾患3名、急性脳症5名、無菌性髄膜炎2名、ほかけいれん性疾患28名、急性腹症（虫垂炎8名、腸重積2名）、川崎病33名、腎疾患11名、入院を要するアナフィラキシー14名、酸素・呼吸管理を要するRSウイルス感染53名、溶連菌感染症5名、Covid-19 12名、インフルエンザ14名、マイコプラズマ感染4名、その他肺炎呼吸器疾患85名、NICU入院130名でした。

NICUにおいては、早期リハビリが必要な症例への介入を積極的に行い、母児/父児の面会を進めています。低体温療法が必要な症例は総合周産母子センター、外科的・集中管理が必要な心疾患は小児心臓血管外科専門施設と連携して診療を行っています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,563	618	612
平均患者数	12.5	1.7	1.7
平均在院日数	7.4	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	136
肺炎等	72
その他の感染症（真菌を除く。）	49
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	45
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	35
川崎病	33
喘息	32
熱性けいれん	27
てんかん	23
ウイルス性腸炎	21
全体	624

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
幽門形成術（粘膜外幽門筋切開術を含む）	2
腸重積症整復術 非観血的なもの	2
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	2
鼓膜切開術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
330	294	624	52.9%	33	5.3%

診療科名： 小児循環器科

小児循環器科は、重症先天性心疾患児の手術までの管理、新生児～学童期の先天性・後天性心疾患児のフォロー、不整脈の診断と保存的治療、産科から紹介される胎児心エコー等に携わっています。小児科スタッフの教育とともに、心エコー診断、呼吸循環管理、薬物療法、手術適応の判断などを行います。

なかでも川崎病は、毎年30名余りが当科に入院します。小児科と協同して、主に心エコー検査にて冠動脈病変を正確に評価し治療方針を決定します。退院後のフォローは小児循環器科が担います。また、毎年、学校心臓検診の2次精査に当たり、定期的な検査や治療を行います。

なお、当院では心疾患合併の重症基礎疾患症例においては、積極的に、できるだけ長く家族とともに過ごして頂く方針をとっております。その際に、在宅サポートを中心にお手伝いさせていただきます。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	0	0	0
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数		-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 外科

外科は今年もスタッフ10名、外科専攻医2名で診療に当たっており時に3列並列で手術を行っております。2024年の手術件数は初めて700件を越え、708件となっております。ただ、本年は麻酔科医の減少があり、それに伴って件数も減少傾向です。腹腔鏡およびロボット支援を含めた低侵襲手術は463件と過去最高となり、総数に対する低侵襲手術の割合も65.4%と昨年の61.1%を越えております。

近年多い急性胆嚢炎もほとんどを腹腔鏡下で手術を行っております。また本年は胃で1名プロクターの資格を取得しており、更なるロボット手術の普及を目指しております。また近年の傾向として顕著なのは患者の高齢化で、2024年の肝切除患者の平均年齢は実に75歳でありました。2024年の学会発表は54件と昨年を上回りました。また誌上発表を11篇行い、うち6篇が英文と引き続き岩国から世界に情報を発信しております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	11,279	1,086	1,144
平均患者数	30.8	3.0	3.1
平均在院日数	10.1	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
乳房の悪性腫瘍	163
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	140
虫垂炎	99
胃の悪性腫瘍	97
直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	97
胆嚢炎等	94
鼠径ヘルニア	91
食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	79
ヘルニアの記載のない腸閉塞	71
胆嚢疾患（胆嚢結石など）	46
全体	1,205

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	131
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	66
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	54
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	53
乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	46
ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	34
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	20
内視鏡的胆道拡張術	18
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術・手術用支援機器使用）	17
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	16

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,067	138	1,205	88.5%	104	8.6%

診療科名： 胸部外科

胸部外科では、肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸といった多岐にわたる呼吸器疾患に対し、手術を中心とした最先端の医療を提供しています。今年度も呼吸器外科専門医2名とレジデント1名の計3名体制で、患者さん一人ひとりに最適な治療を追求してまいります。

昨年の手術件数は190件に達し、一昨年から横ばいでしたが、山口県内ではトップの手術実績を誇ります。手術の約9割を胸腔鏡を用いた鏡視下手術で完遂しており、術後の回復を早め、社会生活への早期復帰を支援しています。さらに、新たな取り組みとして導入した単孔式胸腔鏡下手術や、肺悪性腫瘍に対するロボット支援下手術も積極的に活用し、より安全で精密な治療を提供できるよう努めております。

私たちは、日々の診療だけでなく、学術活動にも力を入れています。昨年も学会等で25件の発表を行い、さらに2報の英語論文を発表するなど、常に最新の知見を取り入れ、医療の発展に貢献しています。これからも、患者さんが安心して治療を受けられるよう、質の高い医療の提供と、たゆまぬ技術向上に努めてまいります。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,352	252	260
平均患者数	6.4	0.7	0.7
平均在院日数	9.2	—	—

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肺の悪性腫瘍	153
気胸	33
肺・胸部気管・気管支損傷	14
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	12
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	8
呼吸器系の良性腫瘍	6
胸水、胸膜の疾患（その他）	5
抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	5
肺炎等	4
間質性肺炎	3
全体	264

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 区域切除	46
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	40
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	25
胸腔鏡下肺切除術 肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの）	13
胸腔鏡下試験切除術	10
胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	6
胸腔鏡下肺切除術（区域切除）	6
胸腔鏡下肺縫縮術	5
肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	4
胸腔鏡下肺切除術 部分切除	3

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
228	36	264	86.4%	17	6.4%

診療科名： 整形外科

整形外科は6名で診療を行っています。外来診療は月曜、火曜、木曜日で水曜日、金曜日は手術日となっています。平日夜間や休日は呼び出し担当医を決めて24時間、整形外科疾患に対応できるようにしています。毎朝急患、手術症例など整形外科カンファレンスを行い適切な治療が行えるよう検討しています。また毎週火曜日には他業種を含めて全体でカンファレンスを行い情報を共有しています。

手術は外傷から膝、股関節の人工関節、鏡視下膝半月板損傷修復術、鏡視下肩鍵板断裂修復術、脊椎手術と広範囲に渡り行っており2024年度は年間960例程度で年々増加傾向にあります。3次救急施設であるため重症の外傷も多く手術症例の約6割が外傷となっています。近年高齢者の大腿骨近位部骨折が人口の高齢化と共に増加傾向であり、早期手術が予後に影響するため他科と連携してできるだけ受傷後48時間以内に手術を行うように努めています。また手術後は急性期を過ぎて状態が安定しリハビリ治療が継続して必要な場合はご家族と相談の上、転院先を決めて治療を継続していきます。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	20,133	900	914
平均患者数	55.0	2.5	2.5
平均在院日数	22.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
股関節・大腿近位の骨折	235
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	88
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎	76
前腕の骨折	73
肩関節周辺の骨折・脱臼	46
足関節・足部の骨折・脱臼	37
膝関節周辺の骨折・脱臼	32
骨盤損傷	30
肘関節周辺の骨折・脱臼	30
鎖骨・肩甲骨の骨折	28
全体	963

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
骨折観血的手術（大腿）	179
人工骨頭挿入術（股）	87
骨折観血的手術（手舟状骨）	85
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 後方又は後	66
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	50
骨折観血的手術（鎖骨）	41
人工関節置換術（肩）	36
顕微鏡下腰部脊柱管拡大減圧術	34
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	22
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）（1椎間）	18

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
759	204	963	78.8%	302	31.4%

診療科名： 形成外科

当科は平成19年に開設され、眼瞼疾患（眼瞼下垂・眼瞼内反/外反など）、小児先天異常（耳介変形・多指症など）、外傷（顔面骨折・四肢外傷・熱傷など）、皮膚良/悪性腫瘍、癌切除後再建（頭頸部癌・乳癌・皮膚癌など）、瘢痕（肥厚性瘢痕・拘縮・ケロイド）、難治性潰瘍（術後創治癒遅延・足壊疽・褥瘡など）、その他（リンパ浮腫、顔面神経麻痺静的再建など）の治療を行っています。2024年度は587例の手術を行いました。

再建マイクロサージャリー分野指導医が常勤しており、他科の先生方と連携して悪性腫瘍や外傷、慢性創傷に伴う軟部組織欠損に対する再建手術や外傷などに伴う末梢神経・血管損傷の修復手術などに力を入れています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,637	158	156
平均患者数	4.5	0.4	0.4
平均在院日数	10.4	—	—

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
眼瞼下垂	28
皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	20
骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	18
骨髄炎（上肢以外）	10
顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	7
膿皮症	7
糖尿病足病変	6
瘢痕拘縮	6
皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	5
その他の新生物	4
全体	160

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
眼瞼下垂症手術 眼瞼挙筋前転法	22
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	15
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（躯幹）	14
腐骨摘出術（手）	9
断端形成術（骨形成を要す）（足・指）	7
皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径 2cm以上 4cm未満）	6
瘢痕拘縮形成手術（その他）	6
全層植皮術（25 c㎡未満）	6
眼瞼下垂症手術 その他のもの	5
分層植皮術（100 c㎡以上 200 c㎡未満）	4

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
146	14	160	91.3%	9	5.6%

診療科名： 脳神経外科

【診療体制と実績】

当科は脳神経外科医師9名（日本脳神経外科学会専門医6名、後期研修医3名）の体制で日々の診療にあたっています。山口県東部のみならず広島県西部から島根県南部の広域において24時間365日脳神経外科の救急患者さんに対応できる唯一の施設です。年間入院患者数は約900人、年間手術件数は約400件あり中国四国地方において有数の施設になっています。常時1名以上が緊急の呼び出しに対応出来る様に待機し、診断から治療までを円滑に行える体制を整えています。また当科医師9名による週4回のカンファレンスにおいて個々の患者さんの病状を十分検討したうえで治療方針や手術方法を決定しています。専門医6名は脳神経外科全般の診療に加えて、それぞれが得意とする専門分野を持っており、各分野で安心安全な医療が提供できるように日々研鑽を積んでおります。

【脳卒中診療に関して】

当院は日本脳卒中学会から「一次脳卒中センター」に認定されています。一次脳卒中センターとは、地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中や脳卒中を疑う患者を受け入れ、患者搬入後可及的速やかに診療・治療（t-PA静注療法を含む）が開始できる施設です。さらに一次脳卒中センターの中でも地域において中心となる一次脳卒中センター（一次脳卒中センターコア施設）が診療実績や診療体制をもとに決められ、当院も一次脳卒中センターコア施設に認定されています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	16,698	923	945
平均患者数	45.6	2.5	2.6
平均在院日数	17.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
脳梗塞	280
頭蓋・頭蓋内損傷	151
非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	106
未破裂脳動脈瘤	93
脳血管障害	69
てんかん	38
頸椎頸髄損傷	36
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	30
脳腫瘍	27
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 頸部	22
全体	984

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	69
経皮的脳血栓回収術	42
脳血管内手術 1箇所	30
経皮的頸動脈ステント留置術	27
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	22
脳血管内手術 脳血管内ステントを用いるもの	19
頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	18
頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）	11
脳動脈瘤頸部クリッピング 1箇所	11
内視鏡下脳内血腫除去術	10

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
743	241	984	75.5%	368	37.4%

診療科名： 心臓血管外科

当科では岩国市を含む山口県東部を中心に、広島県西部、島根県南部と幅広い地域からの患者さんを受け入れています。近年高齢化に伴い大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症等の弁膜症が増加しており、安全な医療が提供できるよう日々努力しています。手術室に据置型の血管造影装置を結合させたハイブリッド手術室を有し、手術中に血管造影検査を行うことが可能で、胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤に対し従来型手術はもちろんのこと、より低侵襲なステントグラフト治療も行っています。

2024年は年間210例の手術を行いました。うち心臓・胸部大血管手術は102例で、腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術は20例、ステントグラフト治療は胸部・腹部あわせて33例行いました。また下肢閉塞性動脈硬化症に対する血行再建術や急性動脈閉塞に対する緊急血栓除去手術、透析で用いる内シャント造設術も行なっています。下肢静脈瘤に関しては血管内高周波カテーテル治療を導入しており、ストリッピング術・結紮術とともに適応に合わせて治療を行っています。

全ての患者さんに対し、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士等、循環器診療に携わるスタッフが連携して総合的かつ包括的な医療を提供することで、手術を安全に受けていただくだけでなく、退院後も質の高い生活が維持できる体制をとっています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,212	247	262
平均患者数	11.5	0.7	0.7
平均在院日数	16.6	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	67
弁膜症（連合弁膜症を含む。）	55
解離性大動脈瘤	37
狭心症、慢性虚血性心疾患	33
徐脈性不整脈	28
静脈・リンパ管疾患	21
破裂性大動脈瘤	5
閉塞性動脈疾患	5
手術・処置等の合併症	4
循環器疾患（その他）	4
全体	273

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
弁置換術 1弁のもの	26
ペースメーカー交換術	24
ステントグラフト内挿術 1以外の場合 腹部大動脈	15
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）腹部大動脈（その他のもの）	14
冠動脈、大動脈バイパス移植術 2吻合以上のもの	11
下肢静脈瘤血管内焼灼術	11
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術 その	10
ステントグラフト内挿術 1以外の場合 胸部大動脈	10
冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの） 2吻合以上のもの	7
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）弓部大動脈	7

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
254	19	273	93.0%	29	10.6%

診療科名： 小児外科

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	56	25	25
平均患者数	0.2	0.1	0.1
平均在院日数	2.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
鼠径ヘルニア	8
男性生殖器疾患	5
停留精巣	4
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	2
閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	2
その他の消化管の障害	1
胸郭の変形及び先天異常	1
骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	1
水腎症等	1
虫垂炎	1
全体	26

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	12
停留精巣固定術	4
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）長径3センチメートル以上6センチメートル未満	2
ヘルニア手術 臍ヘルニア	2
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル以上	2
漏斗胸手術 胸骨挙上用固定具抜去術	1
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	1
経尿道的尿管ステント抜去術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
22	4	26	84.6%	0	0.0%

診療科名： 皮膚科

皮膚科では皮膚に関連する疾患全般の診療を行っています。湿疹や水虫など皆様もご存じの疾患から、細菌感染症やウイルス感染症など時に入院も必要となる疾患、皮膚腫瘍など手術の必要な疾患、乾癬や自己免疫性水疱症といった皮膚科特有の疾患など様々です。アトピー性皮膚炎や乾癬、円形脱毛症などの特定の皮膚疾患では近年分子標的薬が注目を集めています。当院でも最新の治療を受けることが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。患者様のお悩みに寄り添った医療を目指しています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	964	67	83
平均患者数	2.6	0.2	0.2
平均在院日数	12.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
膿皮症	24
皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	20
帯状疱疹	12
水疱症	5
糖尿病足病変	3
静脈・リンパ管疾患	2
頭頸部悪性腫瘍	2
敗血症	2
その他の悪性腫瘍	1
炎症性角化症	1
全体	86

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	15
全層植皮術（25 c m ² 未満）	8
皮膚切開術 長径10センチメートル未満	1
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径2センチメートル未満	1
分層植皮術（25 c m ² 以上100 c m ² 未満）	1
全層植皮術 25平方センチメートル以上100平方センチメートル未満	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
77	9	86	89.5%	9	10.5%

診療科名： 泌尿器科

山口県東部地域および近郊医療圏域の患者さんに対して、個々の要望や価値観を取り入れながら都市部と遜色のない診療レベルの確保を目指しています。診療範囲は尿路悪性腫瘍を中心に手術療法およびがん薬物療法、終末期緩和医療を行っています。また、良性疾患に対しては尿路結石症、尿路感染症、骨盤臓器脱に対しても治療を行っています。泌尿器科スタッフは5名で、外来・入院ともにチーム主治医制による診療を行っています。

【2024年実績】

ホルミウムヤグレーザー手術 109 件，ロボット支援手術 136件。新規事業；TAP/ECIRS，ICUD-ICの導入。

【これからの目標】

病診連携の充実、逆紹介の向上。低侵襲手術の提供による市民へのより良い医療の提供。スタッフの技術レベル向上と後期研修医への教育の充実を目標にしています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	7,186	719	759
平均患者数	19.6	2.0	2.1
平均在院日数	9.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
膀胱腫瘍	200
前立腺の悪性腫瘍	171
上部尿路疾患	87
腎臓又は尿路の感染症	66
腎盂・尿管の悪性腫瘍	56
前立腺肥大症等	41
下部尿路疾患	31
腎腫瘍	28
生殖器脱出症	21
男性生殖器疾患	21
全体	793

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	113
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	86
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	65
経尿道的尿管ステント留置術	38
経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術（ホルミウム又は倍周波数レーザー）	36
腹腔鏡下仙骨脛固定術（内視鏡手術用支援機器使用）	21
膀胱内凝血除去術	18
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	15
包茎手術 環状切除術	10
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	9

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
745	48	793	93.9%	61	7.7%

診療科名： 産科

少子化の影響もあり、当院での分娩数は年々減少傾向です。岩国市内では今まで3か所の分娩施設がありましたが、昨年1か所が分娩の取り扱いをやめ、もう1か所も来年3月末で分娩休止と聞いております。そうすると岩国市内の分娩施設は当院1か所となります。

周産期管理については、日本周産期新生児学会胎児専門医が在籍しています。地域周産期医療センターの指定も受けており小児科の先生の御協力のもと妊娠32週以上、推定体重1500g以上の児であれば管理が可能です。当院で対応できない場合は市外の対応施設に搬送しています。母体保護法指定医が在籍しているため人工妊娠中絶にも対応しています（妊娠20週までの対応です）。医師数は4名で常勤医3名、専攻医1名ですべて婦人科と兼任です。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,127	350	348
平均患者数	5.8	1.0	1.0
平均在院日数	6.1	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
胎児及び胎児付属物の異常	61
分娩の異常	50
早産、切迫早産	40
妊娠中の糖尿病	18
産褥期を中心とするその他の疾患	16
妊娠高血圧症候群関連疾患	10
流産	7
妊娠合併症等	6
前置胎盤及び低置胎盤	4
その他の感染症（真菌を除く。）	1
全体	218

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
帝王切開術 選択帝王切開	41
帝王切開術 緊急帝王切開	34
吸引娩出術	10
子宮頸管縫縮術 シロツカー法又はラッシュ法	4
外陰・陰血腫除去術	2
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時） 肛門に及ぶもの	2
胎盤用手剥離術	2
子宮筋腫摘出（核出）術 腹式	1
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時） 筋層に及ぶもの	1
子宮頸管縫縮術（縫縮解除術（チューブ抜去術））	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
315	36	351	89.7%	5	1.4%

診療科名： 婦人科

婦人科疾患に対しては良性疾患（子宮筋腫、子宮腺筋症、卵巣嚢腫、異所性妊娠など）、悪性疾患（子宮内膜がん、卵巣がん）に対応しており、症例に応じ手術、化学療法を行なっております。子宮頸がんに関しては放射線治療装置がないため、市外の対応施設に紹介としています（治療後のフォローアップは可能です）。良性疾患で適応症例に対しては鏡視下手術（腹腔鏡、子宮鏡手術）も行っております。現在医師4名体制で診療にあたっており3名が常勤医、1名が専攻医ですべて産科と兼任です。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,470	199	207
平均患者数	4.0	0.5	0.6
平均在院日数	7.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
子宮頸・体部の悪性腫瘍	50
子宮の良性腫瘍	34
卵巣の良性腫瘍	29
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	25
流産	19
子宮内膜症	14
生殖器脱出症	14
子宮・子宮附属器の炎症性疾患	6
女性性器のポリープ	3
胎児及び胎児付属物の異常	3
全体	216

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの	38
子宮全摘術	30
流産手術（妊娠11週まで）（手動真空吸引法）	19
子宮脱手術 腔壁形成手術及び子宮全摘術（腔式、腹式）	12
子宮悪性腫瘍手術	10
子宮頸部（腔部）切除術	9
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	5
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	5
子宮筋腫摘出（核出）術 腹式	4
子宮鏡下子宮筋腫摘出術 その他のもの	4

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
187	29	216	86.6%	14	6.5%

診療科名： 眼科

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	310	162	162
平均患者数	0.8	0.4	0.4
平均在院日数	1.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
白内障、水晶体の疾患	147
結膜の障害	10
その他の新生物	1
眼損傷	1
網膜血管閉塞症	1
以下、余白	以下、余白
全体	160

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	148
結膜嚢形成手術 部分形成	9
眼瞼結膜腫瘍手術	1
翼状片手術（弁の移植を要するもの）	1
前房、虹彩内異物除去術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者 割合	全体のうち、 救急搬送数	救急搬送 割合
148	12	160	92.5%	0	0.0%

診療科名：耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科領域の幅広い疾患に対応していますが、とくに頭頸部悪性腫瘍や好酸球性副鼻腔炎を多く扱っています。頭頸部腫瘍では、喉頭・咽頭・舌・口腔・鼻副鼻腔・甲状腺・唾液腺などを対象とし、良性腫瘍には術中神経モニタリングを用いて安全性を高め、悪性腫瘍には切除再建や術後補助療法を組み合わせることで成績向上を図ります。再発・転移例には免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬を活用し、予後とQOLの改善を目指しています。さらに甲状腺乳頭癌のBRAF変異例に対する分子標的治療も導入し、症例数が増加しています。鼻科領域では磁場式ナビゲーションシステムを駆使し、安全で精密な内視鏡下副鼻腔手術を実施。難病指定の好酸球性副鼻腔炎には副鼻腔単洞化手術や抗体製剤（デュピクセント）を適切に用い、良好なQOLを追求しています。その他、中耳炎・咽頭喉頭疾患・顔面神経麻痺・嚥下障害・重症感染症などにも幅広く対応しています

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,609	441	463
平均患者数	12.6	1.2	1.3
平均在院日数	10.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
頭頸部悪性腫瘍	88
扁桃、アデノイドの慢性疾患	53
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	46
慢性副鼻腔炎	34
甲状腺の悪性腫瘍	24
前庭機能障害	23
滲出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞	23
顔面神経障害	18
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	18
声帯の疾患（その他）	17
全体	484

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
口蓋扁桃手術 摘出	52
内視鏡下鼻・副鼻腔手術ⅠⅤ型（汎副鼻腔手術）	32
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	22
扁桃周囲膿瘍切開術	16
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 片葉の場合	16
内視鏡下鼻・副鼻腔手術ⅠⅠⅠ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	15
喉頭腫瘍摘出術 直達鏡によるもの	12
リンパ節摘出術 長径3センチメートル以上	9
鼻中隔矯正術	8
耳下腺腫瘍摘出術 耳下腺浅葉摘出術	8

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
446	38	484	92.1%	17	3.5%

診療科名： 救急科

救急科は2017年4月に発足しました。現在、医師2名、診療看護師1名の3名のスタッフで活動しており、平日の時間内診療は医師1名と診療看護師1名が救急外来を担当し、医師1名が救命救急センター専従として勤務する体制となっています。

救急外来は多数の診療科が使用し、研修医の教育の場にもなっております。多くの救急車、ウォークイン患者を受け入れるため、各科の医師がスムーズに診療、教育できる環境と体制を作っていくことを目標に、日々改善に取り組んでいます。各科の協力により、救急車受け入れ台数は山口県内ではトップクラスを維持しております。

地域の救急医療を円滑にするためには、当院のような急性期病院が積極的に救急車を受け入れる必要があると考えます。一方で、急性期を過ぎた患者は慢性期病院に転院するという流れを作らなければなりません。地域医療に貢献するため、今後も急性期の受け入れを強化していきます。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,332	77	107
平均患者数	3.6	0.2	0.3
平均在院日数	14.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
体温異常	30
薬物中毒（その他の中毒）	21
誤嚥性肺炎	9
詳細不明の損傷等	8
その他の感染症（真菌を除く。）	4
四肢筋腱損傷	4
心不全	4
脳の障害（その他）	4
その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	3
体液量減少症	3
全体	109

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	2
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	1
内視鏡的消化管止血術	1
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
45	64	109	41.3%	86	78.9%

診療科名： 放射線科

放射線科は、読影（画像診断）・IVR・放射線治療の3部門の診療を行っています。現在、常勤医3名（IVR/読影1名、読影1名、治療1名）・非常勤医1名（読影）となっています。

読影は、CT・MRI・RI・PET・単純撮影の所見を、可能な範囲で作成しています。2024年度はCT 8666件・MRI 3145件・RI 261件・PET 585件・単純撮影 919件で、合計 13576件レポートを作成しています。休日・時間外は待機当番制をひき、随時読影依頼に対応しています。上部消化管透視の手技・読影も行っています（2024年度は5件）。2024年7月より、PET-CT検診（がんドック）業務を新たに開始し、5件の検査を行いました。岩国基地からの画像検査依頼も積極的に受けています（2024年度は435件検査しています）。

IVR は、2024年度は97件施行しています。出血の止血、肝TACE、末梢動脈瘤の塞栓、AVFの塞栓、BAE、SVCステント留置、BRTO、腎AMLの塞栓、各種生検・ドレナージ、VATSマーカー挿入、肝嚢胞硬化療法など、胸腹部領域の手技を幅広く手掛けています。緊急の際は随時対応しています。

治療は、岩国市では唯一の放射線治療施設であり、岩国市内のみならず山口県東部・広島県西部からも広く患者様をご紹介いただいて治療しています。2024年度は治療機械更新のため約半年間治療を行うことができずご迷惑をおかけいたしましたが、多くの関係者のご尽力の結果、無事に12月から治療を再開することができました。新たな治療として、脳・脊椎・オリゴ転移などへの定位放射線治療も2025年2月より開始しており、より幅広い症例に対して最適な放射線治療を実施してまいります。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	0	0	0
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数		-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 麻酔科

麻酔科は手術件数に対し麻酔科医の人数が十分とは言えないため、手術麻酔をしっかり守ることを主眼に運営をしております。2024年度の総手術件数は3,983症例、その内、麻酔科管理症例は3,072症例件でした。2024年5月より篠原紫乃先生が勤務となっております。常勤7人と関連病院から診療支援を頂いて臨床を支えています。研究面では、学会発表1演題です。教育面では、初期研修医1年目は、11人、2年目は2人の麻酔科研修を担当致しました。救急救命士の気管挿管病院実習は3人を、ビデオ喉頭鏡実習は7人を担当しました。初期研修医教育、地域医療に貢献しております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	0	0	0
平均患者数	0.0	0.0	0.0
平均在院日数		-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 病理診断科

2024年度、病理診断科は常勤医師2名、臨床検査技師4名の体制で業務を行っている。件数は組織診断が5150件(うち迅速診断261件)、細胞診断3574件、剖検数5体である。

当院は平成30年に癌ゲノム医療連携病院に指定された。病理検体から遺伝子情報を抽出し治療に活かす癌ゲノム医療が全国で始まっており、当科においても体制整備を整え、岡山大学病院とのウェブミーティング(エキスパートパネル)に定期的に参加し、がん診療に貢献している。病理検体を使って行う検査のうち、治療薬につながる検査が年々増加しており、スムーズに正確な結果を得られるように努力している。

臨床検査科では、国際規格「ISO 15189」認定を取得し高いレベルの精度管理を行っている。ISO認定の継続更新も行われ、精度の高い診断が行えるように努力している。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数			
平均患者数			
平均在院日数		-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

【各部門活動報告】

薬剤部

薬剤部長 西澤 修一

1) 薬剤部の紹介、特徴

常勤薬剤師21名(定員26名)、非常勤薬剤師2名、薬剤助手6名

薬剤部内での業務(調剤業務、製剤業務、抗がん剤やTPNの無菌調製業務)とは別に、各病棟に専任の薬剤師を配置して病棟薬剤業務を展開し、安全で安心な薬物療法の実践に取り組んでいる。

また薬学部長期実務実習の受入施設として、2024年には7名の実習生を受け入れて、後進の育成に努めている。

2) 薬剤部の実績

		2022 年度	2023 年度	2024 年度
注射処方せん枚数	入院枚数	233,443	225,292	223,042
	外来枚数	21,484	21,975	20,544
処方せん枚数	入院	117,152	127,393	127,538
	外来院内	1,170	1,208	1,384
	外来院外	56,128	57,272	53,960
院外処方せん発行率		97.2%	98.0%	97.5%
薬剤管理指導料	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	4,608	6,161	6,507
	請求件数内訳2. 1以外	9,453	10,925	9,686
	請求件数(上記合計)	14,061	17,086	16,193
	麻薬加算件数	302	369	293
	薬剤師1人当請求数	67.9	79.1	77.5
入院時支援加算請求件数		363	349	374
退院時薬剤情報管理指導料件数		1,420	1,948	1,971
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算 1 件数	22,230	26,815	26,006
	病棟薬剤業務実施加算 2 件数	0	0	1,982
	持参薬確認数	13,106	13,347	13,252
	処方支援・診療支援数	867	2,002	2,333
	薬剤師のレジメンチェックによる処方変更件数	375	932	624
無菌製剤処理科1、2	1の閉鎖式接続器具を使用した請求件数	113	238	405
	1の上記以外の請求件数	6,176	5,682	4,806
	2 請求件数	25	401	250
薬剤情報提供料	請求件数	447	475	577
外来化学療法加算	連携充実加算 請求件数	0	22	0
外来患者服薬指導等	自己注射等指導件数	49	36	45
	サリドマイド及びその誘導体登録等指導件数	14	6	14
	上記以外	3,669	3,264	3,041
ブレイバイド報告数		25	0	10

3) 認定薬剤師数 (令和6年7月1日現在)

- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師 1 名
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師 2 名
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 1 名
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 2 名
- ・日本臨床薬理学会 日本臨床薬理学会認定CRC1 名
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 1 名
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 2 名
- ・日本臨床栄養代謝学会 NST専門療法士 2 名
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士 1 名
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 4 名
- ・厚生労働省 日本DMAT登録 1 名
- ・日本医療福祉検定協会 医療環境管理士 1 名
- ・日本アンチ・ドーピング機構 スポーツファーマシスト 2 名

4) 学会・講演会発表

- ・武良 卓哉 がん薬物治療の副作用対策について～悪心嘔吐対策を含む～
薬剤師連携セミナーin 岩国 2024.7.25
- ・前岡 遼祐 オキサリプラチンによる末梢神経障害発現に及ぼすプロトンポンプ阻害薬の影響に
ついて
第 63 回中国四国地区国立病院 薬学研究会 2024.9.7
- ・荒神 一博 DMAT 活動報告
第 63 回中国四国地区国立病院 薬学研究会 2024.9.8
- ・田中 暁子 疼痛緩和を考える～実際の症例を通して～
薬剤師連携セミナーin 岩国 2024.12.17
- ・池田 雛子 心不全患者における当院での取り組み
薬剤師連携セミナーin 岩国 2025.3.6

臨床検査科

<スタッフ>

臨床検査科長……木村 宣彦

臨床検査技師長……黒田 和彦

副臨床検査技師長…後藤 象悟、西村 武俊

主任臨床検査技師…6 名

常勤臨床検査技師…15 名、非常勤臨床検査技師…2 名、事務…2 名(2024/4/1 時点)

<2024 年度臨床検査科目標>

1. 品質向上のための情報収集を行う(TAT・インシデント・採血管間違い・報告内容改定)
2. 勉強会・学会へ参加する。
3. 年休取得率の向上。
4. スタッフ間で協力・気配・共有ができる検査室をつくる。

<臨床検査科紹介>

臨床検査科は、臨床検査科長を頂点とし、その直下に臨床検査技師長が配置され、科の運営全般を担っています。臨床検査技師長のもとには副臨床検査技師長 2 名が補佐として配置され、主任臨床検査技師 6 名、常勤臨床検査技師 15 名、非常勤臨床検査技師 2 名、事務員 2 名の計 29 名で構成され、チーム一丸となって質の高い検査業務を提供しています。検査体制は、平日日中のルーチン検査に加え、時間外の緊急検査や心臓カテーテル検査補助にも対応し、365 日・24 時間体制で迅速かつ正確な検査を実施しています。令和 3 年の制度改正により臨床検査技師の業務範囲が拡大し、タスクシフト・タスクシェアへの対応が求められる中、当施設では厚生労働大臣指定の講習会受講を推奨し、体制整備に向けた準備を進めています。教育面では積極的に臨地実習を受け入れており、今年度は山陽女子短期大学から 2 名の実習生を受け入れ、改正された指導ガイドラインに沿って丁寧な指導を行いました。

臨床検査科は病理診断科と連携して運営されており、組織図上は複雑ながらも良好なコミュニケーションにより円滑な管理がなされています。また、当院は ISO 15189 の認定を取得しており、検体・病理・生理検査のすべての分野で認定を受けています。十分な能力を持つスタッフによる品質管理が適正に行われており、日々の内部精度管理に加え、日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、山口県臨床検査技師会、各種メーカーが実施する外部精度管理にも毎年参加し、検査の精度維持・向上に努めています。

<各種認定技師>

細胞検査士 3 名、認定輸血検査技師 1 名、認定病理検査技師 1 名、超音波検査士 4 名(循環器 4 名、消化器 1 名)、臨床工学技士 1 名、二級臨床検査士 3 名(血液学、免疫血清学、微生物学)、緊急検査士 4 名、認定サイトメトリ技術者 1 名、有機溶剤作業主任者 4 名、特定化学物質取扱主任者 1 名が在籍し、日夜研鑽を行っている。(2024/5/1 時点)

< 検査実績 (2024 年度) >

施設名： 岩国医療センター

2024年4月～2025年3月

		区分	院内検査件数				外部委託 件数(別掲)	
			入 院	外 来	請求外件数	総件数		
件 数 統 計	合 計	1～8	728,862	1,140,579	12,126	1,881,567	27,815	
	尿・便等検査	1A、1B	13824	34425	1920	50169	0	
	髄液・精液等	1C、1Z	246	134	0	380	0	
	血液学的検査	2A～2C・2Z	96824	125105	2668	224597	343	
	生化学的検査	3A～3M・3Z	528769	784513	4803	1318085	6662	
	内分泌学的検査	4A～4H・4Z	8930	27600	0	36530	2493	
	免疫学的検査	5A～5K	59550	143959	2460	205969	16827	
	微生物学的検査	6A～6C・6Z	15640	17771	0	33411	603	
	病理組織検査	7B・7C・7D	4206	3664	275	8145	146	
	細胞診検査	7A	779	2835	0	3614	0	
	機能検査	8A	94	573	0	667	0	
	染色体検査	8B	0	0	0	0	185	
	遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	556	
	合 計	9	臨床検査技師実施件数				技師外実施 件数(別掲)	出張件数 (再掲)
			入 院	外 来	請求外件数	総件数		
			5321	21228	450	26999	12498	44
	心電図検査等	9A	2461	12144	450	15055	10843	41
	脳波検査等	9B	557	729	0	1286	0	3
	呼吸機能検査等	9C	398	4132	0	4530	0	0
	前庭・聴力機能検査等	9D	0	0	0	0	634	0
	眼科関連機能検査等	9E	0	0	0	0	0	0
	超音波検査等	9F	1902	4222	0	6124	1021	0
	その他	9I・9G・9Z	3	1	0	4	0	0
	穿刺・採取料等	9J	346	173	0	519	0	0
実 績 統 計			総数	計上内容等				
	MRI件数		0	臨床検査技師が実施したMRI件数				
	内視鏡件数		0	臨床検査技師が介助した件数				
	病理解剖件数	7 Z 全身	5	脳解剖を含む病理解剖数				
		一部のみ	0	脳解剖を含まないまたは脳解剖のみの病理解剖数 ただし屍検は含まない				
	輸血管理部門の取扱い状況		*****					
	入庫数	製剤数	4553	入庫した血液製剤バッグ数				
	出庫数	製剤数	4502	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数				
	輸血済み血液製剤数	製剤数	4426	輸血が実施された血液製剤バッグ数				
	血液製剤廃棄率	%	0.68	自己血を除く血液製剤廃棄率（年度通算）				
	病理組織ブロック数	個	17998	病理解剖を除くブロック数				
	免疫染色枚数（病理）	枚	4803	のべ染色枚数(組織および細胞)				
	特殊染色枚数（病理）	枚	2003	のべ染色枚数(組織および細胞)				
	医療機器保守点検件数	件数	609	検査部門内外の医療機器点検件数				
	各種チーム医療連携業務	件数	860.70	チーム医療連携業務の件数およびタスク・シフト／シェア業務の時間数				
	各種指導・教室等実施状況	件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション				
	治験取扱い患者人数	患者数	659	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件				
	臨床研究取扱い患者人数	患者数	92	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数				
	実習・研修等受入れ状況	単位	152	計算式＝受け入れ日数（1日を8時間として）×人数				
			入 院	外 来	総件数	計上内容等		
	心電図等解析件数	件数	188	411	599	心電図・ECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数		
	超音波検査等所見記載件数	件数	1746	4137	5883	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数		
	小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数	患者数	456	910	1366	小児（14歳以下）、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数（項目限定）		
	検査説明・相談件数	件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数		
	鼻腔ぬぐい液等検体採取件数	件数	0	0	0	臨床検査技師が採取した件数		
	採血管準備患者数	患者数	22931	3943	26874	検査部門で採血管準備した患者数。（職員健診分は除く）		
	静脈採血患者数	患者数	0	1433	1433	検査技師が静脈採血した患者数。（職員健診や接触者健診分などは除く）		

<2024 年度新規導入機器>

生理検査部門

2024 年 4 月 心臓超音波診断装置 1(EPIQCVx 1)を更新

2024 年 4 月 心臓超音波診断装置 2(EPIQCVx 2)を更新

2024 年 5 月 一時式使用ペースティング機能付き除細動器(TEC-5631)を更新

		
EPIQCVx 1	EPIQCVx 2	除細動器

2024 年 6 月 生体情報モニタ 1(腹部エコー室)を更新

2024 年 6 月 生体情報モニタ 2(腹部エコー室)を更新

2024 年 12 月 ゲルウォーマー3 台を更新

		
生体情報モニタ 1	生体情報モニタ 2	ゲルウォーマー

<2024 年度新規導入機器>

生理検査部門

2025 年 2 月 ホルタ心電図を更新

検体検査部門

2024 年 8 月 β -D グルカン測定装置 1 台(リムセイブ MT-7500)を更新

	
FM-1400	MT-7500

<業績(2024 年度)>

学会発表・講演会

氏 名	松田正浩
演題名	シンポジウム演題 1「国立病院機構に夫婦で勤めて」
学会名	第 12 回国立病院臨床検査技師協会中国四国支部学会(岡山国際交流センター)
日 付	2024/09/14

氏 名	齋藤真奈美
演題名	スライドカンファレンス「唾液腺」「体腔液」
学会名	令和 6 年度中国四国グループ臨床検査技師実習技能研修Ⅲ(細胞診)
日 付	2024/11/26

氏 名	松田正浩
演題名	症例②「子宮内膜細胞診の 1 例」
学会名	第 204 回広島細胞診研究会(広島市民病院)
日 付	2024/12/01

氏 名	佐藤瑞記
演題名	AST とは？これから AST に参加する技師に向けて
学会名	2024 年度 国臨協研修会(微生物部門)
日 付	2025/02/01

<2024 年度の取り組み>

当検査部門は、2022 年 4 月に JAB より ISO 15189 認定を取得して以来、品質マネジメントシステムの継続的な運用と改善に取り組んできました。2023 年 2 月の第 1 回定期サーベイランスでは認定継続が承認され、2024 年 2 月の第 2 回定期サーベイランスでは 5 件の不適合が指摘されましたが、速やかに是正処置を実施し、2024 年 4 月に認定継続の承認を得ました。

現在、2025 年 3 月の時点では、ISO 15189 の移行審査および再認定審査が 2025 年 8 月に予定されており、その準備を進めている段階です。加えて、2025 年 4 月には大規模な人事異動が予定されており、臨床検査技師長以下数名の入れ替えが行われる見込みです。これに伴い、検査部門の体制に大きな変化が生じることから、業務の継続性と品質の安定的な維持に向けた取り組みが今後ますます重要となります。

(文責:黒田和彦／齋藤豊彦)

放射線科

放射線科の紹介

放射線科は、画像診断部門および放射線治療部門の二部門から構成されており、診療放射線技師 24 名、事務助手 2 名が所属しております。

画像診断部門においては、CT、MRI、核医学、血管造影などの高度医療機器を用いて、診断に資する高精度な画像情報を提供しております。これにより、各診療科における迅速かつ的確な診断・治療方針の策定に寄与しております。

放射線治療部門では、悪性腫瘍に対する放射線治療を中心に、根治を目的とした治療から症状緩和を目的とした緩和的治療まで、患者の病態に応じた幅広い治療を実施しております。安全性と治療効果の両立を図りながら、個別化された治療計画に基づく質の高い医療提供に努めております。

また、診療放射線技師は、専門性の向上を目的として、各種認定資格の取得や学会・研修会への積極的な参加を通じて、日々技術の研鑽に励んでおります。これにより、医療の質の向上とチーム医療への貢献を目指しております。

人員構成

診療放射線技師長	(1 名)
副診療放射線技師長	(2 名)
主任診療放射線技師	(6 名)
診療放射線技師	(15 名)
事務助手	(2 名)

主な保有機器

一般撮影装置	(4 台)
乳房撮影装置	(1 台)
透視撮影装置	(2 台)
CT 撮影装置	(80 列 1 台、320 列 1 台)
MRI 撮影装置	(1.5T1 台、3.0T1 台)
血管撮影装置	(バイプレーン 3 台、手術室ハイブリッド 1 台)
PET/CT 装置	(1 台)
SPECT 装置	(1 台)
骨密度測定装置	(1 台)
放射線治療装置	(1 台)

令和 6 年度放射線部門目標

1. 高度な医療の提供

- 学会や研修会などへ積極的に参加し幅広い知識を身につける
- 各認定資格所得を推進し個々の専門性を高める

2. 働きやすい職場づくり

- 職場内でのコミュニケーションを推進し、何でも相談しやすい雰囲気を作る
- 時間外勤務の削減に取り組む
- 有給休暇取得を奨励する

業務実績（令和 6 年度）

総件数	一般撮影	乳房撮影	透視撮影	血管造影
87,512	46,688	981	924	1,725

C T	M R I	R I	P E T	放射線治療
24,284	8,637	427	588	2,329

機器整備

・更新	2024/5	RIS	MEDICALCREATE
	2024/7	PET/CT	シーメンス Biograph Horizon
	2024/7	RI	シーメンス Symbia Evo Excel
	2024/12	放射線治療装置	Varian TrueBeam

業績

①学会・研究会発表

- ・2024/8/10 広島県医療情報技師会主催 第1回画像部会セミナー

～「知らない」から始める医用画像情報の基礎～

「モニタ管理」～医用画像表示用モニタの品質管理に関するガイドライン～

一ノ瀬 拓実

- ・2024/12/21 2024 年度 日本医用画像情報専門技師会主催

「デジタルネイティブが放射線科システムを仕切るとどうなる？」

～システム構築や更新を経験して～

一ノ瀬 拓実

- ・2025/1/16 令和 6 年度 第1回岩国地域講習会

「ポータブル撮影における医療安全について」

竹内 紗羅

「当院の静脈路確保について」

八木 駿明

- ・ 2025/2/19 令和 6 年度 公益社団法人 広島県診療放射線技師会 呉支部研修会
「国立病院機構中国四国放射線技師会での STAT 画像所見報告への取り組み」

灘 尊則

- ・ 2025/3/4 国立病院機構中国四国放射線技師会 第 5 回 医療情報勉強会
「システムリプレイス報告」

一ノ瀬 拓実

②その他

- ・ 2024/10/25、11/1 看護学校講義

石脇 清史

楠 貴宏

リハビリテーション科

リハビリテーション科医長 生田陽彦
理学療法士長 河野明彦
作業療法士長 長谷宏明

令和6年度はリハビリテーション科医師1名、理学療法士19名、作業療法士8名、言語聴覚士4名の合計31名体制で臨床業務にあたりました。

1. 当科の取り組み

1) 診療

当科は脳血管リハビリ I、廃用症候群リハビリ I、運動器リハビリ I、呼吸器リハビリ I、心大血管リハビリ I、がん患者リハビリの施設基準を取得しています。

処方については、様々な診療科から受けていますが、脳神経外科からが最も多く全体の24.0%、次いで循環器内科15.8%、整形外科14.8%、呼吸器内科13.1%、消化器内科7.6%、外科6.4%、心臓血管外科4.1%、胸部外科4.8%、内科2.0%、泌尿器科2.5%、救急科1.3%、小児科0.7%、耳鼻咽喉科1.0%、その他、腎臓内科、肝臓内科、婦人科、皮膚科、形成外科からの処方に対してリハビリを実施しています。

リハビリ開始時期については、発症・手術直後からの早期離床に努め、心身の機能回復および廃用・合併症予防に取り組んでいます。医師の指示によっては手術前から介入することもあります。いずれの場合もリハビリテーション総合実施計画書を用いて丁寧に説明し同意を頂くようにしています。

診療にあたっては、コロナ禍の教訓をもとに、手指衛生や必要に応じて感染防護具の着用、使用機器の清掃などの感染対策を継続しております。医療安全に関しても、インシデント事例の振り返りや急変時のシミュレーションを通じて、常に高い意識をもって取り組んでいます。

その他、RSTやNST、認知症ケア委員会、緩和ケア委員会、褥瘡対策委員会などの院内活動にも積極的に参加し、チーム医療を実践しています。

2) 学術活動（学会発表）

第37回 中国ブロック理学療法士学会

・右大腿骨遠位端解放骨折術後に右膝関節可動域の改善に難渋し、関節鏡下受動術を施工した症例

第48回日本高次脳機能学会学術総会

・ジェスチャーを交えた代償行動により意思伝達した重度 Broca 失語の1例

2. 部門紹介

1) 理学療法

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある方に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。理学療法の直接的な目的は運動機能の回復にあります。日常

生活動作の改善を図り、最終的には QOL（生活の質）の向上を目標としています。

2) 作業療法

作業療法とは、作業（仕事・日課・遊び・休息等の人が営むすべての活動）をできるようにすることで生活の充実を図るものです。対象は、身体、精神、発達、高齢期の障害や環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている方で、当院では主に日常生活動作、高次脳機能障害、上肢の運動機能の向上を目的として実施しています。

3) 言語聴覚

言語聴覚療法はことばによるコミュニケーションや摂食・嚥下に問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援することです。当院では、摂食・嚥下の問題に対する処方が増加しており、他職種と共同で治療を提供しています。

3. 診療実績

		2022年度	2023 年度	2024 年度
脳血管 I	単位	27031	25224	22721
廃用症候群 I	単位	14153	14915	11573
運動器 I	単位	17040	17206	15710
心大血管 I	単位	14389	13436	11399
呼吸器 I	単位	14081	16993	14414
がん患者	単位	5932	4817	3318
初期加算	件	42561	45025	39191
早期加算	件	65988	68077	59639
急性期加算	件			8448
摂食機能療法	件	1904	1750	2274
リハビリ総合実施計画評価料	件	4352	4828	4526
退院時リハビリ指導料	件	799	868	1420

栄養管理室

栄養管理室長 別府 成人

(1)部門の紹介、特徴

患者様の様々な疾病に対し、安全かつ満足して頂ける食事を提供するために、新調理システムを導入しています。また病状等により嚥食率が低下している患者様に対し、患者訪問などにより迅速に対応し、栄養状態の改善に努めています。

チーム医療(NST や各種カンファレンス等)においては積極的に参加し、栄養管理の重要性の啓発活動に積極的に取り組んでいます。食習慣の乱れ又は歪みによる生活習慣病等については、患者様の食習慣の是正に向けて、栄養食事指導等を実施しています。また転院等により他施設に行かれる患者様については食形態等栄養に関する情報を栄養情報提供書として作成し転院先の施設に情報提供を行っています。

《スタッフ（4月1日）》

栄養管理室長 1 名,栄養士 6 名,調理師 2 名,調理員（非常勤）6 名

(2)年度の実績

			令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
栄養食事指導件数	入院	加算	1979	1825	1715
		非加算	143	113	106
	外来	加算	450	493	484
		非加算	49	29	26
栄養サポートチーム件数		加算	164	165	131
栄養情報提供加算		加算	34	32	52
選択メニュー加算		加算	3091	3509	2937
実習生受け入れ人数			19	12	15

(3)学会発表実績

第 78 回国立病院総合医学会

「肺癌術後患者に M C T 食を提供し乳糜胸水が改善した 1 症例」

川藤 早也香

(4)選択メニュー

当院では、患者様に食事で喜んで頂けるように常食（食物アレルギー等食事コメントのない方）を対象に選択メニューを実施しています。令和 6 年度に患者様から最も選ばれたメニューのベスト 5 を紹介します。

第1位

シーフードカレー 提供数 129 食



第2位

ちらし寿司 提供数 125 食



第3位

チキンチキンごぼう 提供数 118 食



第4位

オムライス 提供数 116 食



第5位

ビーフバーガー 提供数 108 食



部署名 5階西病棟(救命救急センター) 看護師長名 木戸 優子

●はじめに

当病棟は、令和5年12月より救命救急入院料1を算定しており、救命救急センター病棟として24時間緊急入院患者の受け入れを行っている。

入院患者の疾患別では、循環器疾患、脳血管疾患、精神疾患が上位を占めているが、急性腹症や呼吸不全、多発外傷など様々な疾患にも対応するため、勉強会やOJTでの看護の知識・技術の向上に努めている。

●看護体制

- ・看護方式：パートナーシップ
- ・夜勤体制：3交替制
- ・有資格者：救急看護認定看護師1名 ICLSインストラクター1名
【院内認定】がん化学療法7名 消化器内視鏡1名 PET-CT 1名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度	手術件数	透析延べ件数(月平均)
2023年度	51.2%	3.3日/人	11.4人/日	65.1% (一般Ⅱ) 38.0% (HCU)	219件	376件 (月31.3件)
2024年度	52.5%	4.3日/人	11.8人/日	一般Ⅱ 基準①31.1% 基準②42.9% HCU 基準①15.4% 基準②55.8%	206件	202件 (月16.83件)

●2024年度の活動、取り組み内容、成果

- 救命救急センターとして「安心・安全な看護」の提供を目指し、心電図やドレーン管理に関する勉強会、急変時シミュレーションを実施した。その結果、1年間を通してドクターコールの発生はなく、早期対応の成果として評価できる。今後も認定看護師を中心に、定期的な事例検討を継続し、急変対応に必要な知識・技術のさらなる向上に努めていく。
- 患者・家族に寄り添う看護の実践を目指し、倫理・デスカンファレンスを11件実施し、倫理的課題を検討した。スタッフからは倫理的視点に基づく発言が徐々にみられ、IC同席率は54%から74%へ上昇し、IC後の看護計画修正率も62%から84%へ改善した。今後は日々のカンファレンスを通じて、看護計画への適切な反映を図り、より個別性のあるケアにつなげていく。
- 転倒・転落防止を目的に、KYTを2回実施し、患者の安全を最優先とした療養環境について検討した。その結果、転倒・転落インシデント件数は16件から12件へ減少した。また、インシデント発生事例の約6割においてミニカンファレンスを実施することができた。今後はリスク感性のさらなる向上を目指し、ミニカンファレンスの定着と活用に向け取り組んでいく。

●2024年度 学会・研究発表

救急医療に勤務する新人看護師の成長に影響を及ぼす関わり ーストレスとワーク・モチベーションに着目してー	上村奈々	第20回中国四国地区国立病院 機構・国立療養所 看護研究学会	9月
--	------	--------------------------------------	----

●はじめに

循環器内科・心臓血管外科の混合病棟であり、心筋梗塞・狭心症・心不全・不整脈・弁膜症・胸腹部大動脈瘤などの疾患を対象に急性期から回復期までの患者が入院している。循環器疾患は生活習慣との関わりが深いため、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士、MSW でチームカンファレンスを行いながら退院に向けて指導を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®](パートナーシップ・ナーシングシステム)
- ・勤務体制：2 交替制(4 人夜勤)
- ・有資格者：心不全療養指導士 2 名、院内認定 がん化学療法 1 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2023 年度	91.9%	14.8 日	40.9 人	33.1%
2024 年度	86.2%	13.3 日	38.1 人	基準①：23.1% 基準②：27.8%

その他

	心臓血管外科手術	カテーテル心筋焼灼術	経皮的冠動脈形成術
2023 年度	236 件	218 件	82 件
2024 年度	197 件	223 件	85 件
	心臓カテーテル検査	ペースメーカー植込み術	
2023 年度	131 件	40 件	
2024 年度	120 件	47 件	

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 緊急カテーテル検査治療介助看護師を新たに 2 名育成した。
2. 急変対応能力の向上のため、急変時シミュレーションを 2 回/年実施し、ドクターコール事例の振り返りを行った。急変の発見から蘇生処置、ICU 入室を想定した対応を身につけることができた。
3. 循環器内科 5 件（心不全、アブレーション、PCI、CAG、DC）、心臓血管外科 2 件（ストリッピング、高周波）の病棟マニュアルを修正した。マニュアルに沿って指導を行うことで看護の標準化を図ることができた。
4. インシデント発生後にはカンファレンスで共有し対策の検討を行った。常備薬使用時のダブルチェックの方法の徹底を行い、取り組み開始以降常備薬使用時のインシデントは発生していない。また、転倒・転落リスクの高い患者のカンファレンスで離床センサーの設定や環境整備等の対策を検討した。離床センサー使用患者に緩衝マットを 100%併用できるようになり、転倒・転落インシデントは前年度 61 件から 32 件（3b 事例 1 件）に減少した。
5. 倫理カンファレンスを 7 回/年実施した。病棟スタッフだけでなく、多職種を交え意見交換を行うことで、日頃の看護の振り返りや倫理的感性の醸成に役立った。

●2024 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

産婦人科 14 床・小児科 22 床を有する混合病棟である。令和 6 年 2 月より有料個室を 5 床増床し運用を開始した。24 時間体制で機能する地域周産期母子医療センターとしての役割を担っており、他施設からのハイリスク妊産婦の受け入れも行っている。

また、小児は、15 歳未満のあらゆる診療科の患者を受け入れており、感染症他急性疾患だけでなく、慢性疾患を持ち長期入院している患者とその家族にやさしい看護が提供できるように取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（6 西 4 人夜勤）
- ・有資格者 アドバンス助産師 3 名・NCPR インストラクター 1 名・NCPR 資格取得者 25 名
- 【院内認定】がん化学療法 6 名 消化器内視鏡 1 名

●部署運営状況

	病床稼働率(%)	平均在院日数(日)	平均患者数(人)	救急入院率(%)
2023 年度	69.3	6.5	18.5	70.9
2024 年度	57.8	5.7	17.7	70.5

- ・分娩件数（帝王切開・時間外・死産は再掲）

	分娩件数(件)	帝王切開(件)	時間外(件)	死産(件)
2023 年度	256	77	99	8
2024 年度	303	78	139	11

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. ハイリスク妊産婦に対して、産科医師、小児科医師、外来助産師、病棟助産師、NICU スタッフで毎週カンファレンスを行い情報共有することで妊娠中から出産後まで継続して関わることができるよう実践していった。特に精神的・社会的問題を持つ妊産婦に対しては、退院後早期に母子等要支援者連絡票を送付し、継続した支援が行えるように地域と連携を図った。
2. 小児では、手術前のプレパレーションを導入し、動画の作成やストレッチャーへの飾りつけなど児の発達段階に合わせたケアが行えるよう取り組んだ。また、終末期の患児や家族への関わりについて、看護だけでなく多職種とカンファレンスや勉強会を実施し、子どもやその家族にとって最善の看護実践ができるよう努めた。

●学会・研究発表（2024 年度）

1	小児患児の点滴固定方法の検討 — 刺入部の観察が容易な固定方法の安全性と有用性について —	柏村佳菜	第 78 回国立病院機構総合医学会	10 月
2	新人助産師への分娩時出血対応のシミュレーション教育の効果 — 気持ちの変化と行動変容 —	吉田絵里加	院内看護研究発表会	2 月

●はじめに

当病棟の主な診療科は、消化器内科、肝臓内科である。消化器内科では、消化管腫瘍の患者が最も多く、次いで胆管の結石・胆管炎、膵炎、腸炎の患者が入院し、化学療法や上下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査等を多く実施している。肝臓内科では、肝臓・肝内胆管の悪性腫瘍の患者が多く、次いで肝硬変やアルコール性肝障害の患者が多い。治療としては、肝動脈塞栓術、経皮的ラジオ波焼灼療法、CART 等を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2 交替制（3 人夜勤）
- ・有資格者：ICLS 4 名

【院内認定】がん化学療法 12 名、消化器内視鏡 2 名、

●部署運営状況：病床数 46 床

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2023 年度	92.5%	12.3 日	38.9 人	30.1%
2024 年度	87.3%	11.6 日	36.7 人	基準①18.5% 基準②26.9%

治療・検査件数

	上部内視鏡検査	大腸内視鏡検査	ERCP	肝生検
2023 年度	496 件	248 件	335 件	14 件
2024 年度	501 件	259 件	240 件	13 件

●2024 度の活動、取り組み内容、成果

1. 腫瘍に対する治療においては抗がん剤投与が行われるため、院内認定がん化学療法看護師を増やすため、研修参加を促し新たに 2 名の看護師が取得した。院内認定を取得している看護師を中心に患者の全身状態や薬の副作用等の観察を行い、安全に治療が受けられるように看護している。さらに、入院患者は高齢の方が多いため、パス等を活用して在院日数の短縮を目指すと共に、患者の生活の視点を重視し、多職種と連携をとりながら患者が早期に臨む場所に退院できるよう支援した。
2. 安心・安全な看護を実践するために、療養環境の改善を行った。ベッド、床頭台、オーバーテーブルのストッパーの確認やナースコールの位置、離床センサー稼働の確認等をチェックする独自の環境ラウンド表を作成し、定期的な環境ラウンドを実施した。ラウンド表での環境調整の実施率は 80%から 90%へと上昇がみられた。さらに、ラウンド結果で出ていない部分を周知することで、よりよい環境へのスタッフの意識づけも行えた。
3. 悪性疾患の告知やその後の意思決定に関わるインフォームドコンセントが多く実施される。そのため、患者に寄り添った看護を実践するために IC 同席とその記録の記載を強化した。その結果、IC 同席率は前期 92%、後期 85%であった。看護記録への記載率は、前期 94%、後期 83%であった。IC 後のカンファレンス実施と看護計画立案・修正は 50%程度であるため、今後もカンファレンスを実施し、情報共有するとともに看護計画へ反映できるようにして、患者・家族の意思を尊重し最善の医療、看護が提供できるように取り組んでいく。

●2024 年度 学会・研究発表

研究発表なし

部署名 7階東病棟

看護師長名 岡上 知香

●はじめに

当病棟は、消化器外科・外科・泌尿器科の周手術期、化学療法を行う患者が主に入院している。特に高齢患者は、入院して治療を受けることで生活スタイルの変化を余儀なくされることがある。これらの変化を最小限にできるように、入院時からリハビリスタッフや認知症看護認定看護師等と連携し、看護を行っている。また、ストーマ管理や尿道カテーテルの管理等の医療処置が必要となる患者が、安心して退院後の生活に戻ることができるように、入院時より医師やリハビリスタッフ、栄養士、MSW や皮膚排泄ケア認定看護師等とカンファレンスを行い、早期に問題解決ができるように取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（4 人夜勤）
- ・有資格者：中国ストーマリハビリテーション講習会終了者 4 名
がんのリハビリテーション研修受講者 1 名
BLS・ACLS のインストラクターの資格者 1 名
【院内認定】がん化学療法 14 名 消化器内視鏡 13 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療看護必要度
2023 年度	97.9%	9.8 日	40.8 人	40.5%
2024 年度	94.3%	9.1 日	39.0 人	基準①:38.2%基準②:49.2%

手術件数

	外科・消化器外科	泌尿器科
2023 年度	712 件	501 件
2024 年度	669 件	491 件

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 専門職としての高い技術・知識を習得し、エビデンスに基づいた看護の提供のため、各科疾患別勉強会に向けて資料作成等を進めた。また、ストーママーキングについても皮膚排泄ケア認定看護師や各科外来看護師と連携を強化した。患者に合った最適なストーママーキングができるようにお互いに連絡を取りながら実施することができた。
2. 病棟の特性でもある周手術期の術後感染を防ぐため感染対策に努めてきた。結果としては、術後感染症の増大や新興感染症による病棟内拡大もなく経過した。しかし、感染防止の取り組みとしての指標ともなるアルコール手指消毒薬の使用量は、一日当たり 5～8 g/人と使用量にばらつきがみられる上、推奨されている 20 g/日/人を大きく下回っている。今後は個人使用量を可視化し病棟全体で目標値に達することができるよう取り組みを継続する。
3. 高い倫理観に沿った看護実践のために、倫理カンファレンスを 4 回実施した。主に意思決定支援のカンファレンスを行ったが、経験年数によって発言に偏りが生じていた。今後開催する際には、積極的な発言を促すためにも自己の看護を振り返る題材とするとともに、ファシリテートできる役割を決めておくなどの、意図的な計画が必要である。
4. 働き甲斐のある職場、働き続けられる職場をつくる一環として、看護学生へのかかわり方を次世代の育成とし取り組んだ。実習では、必ず学生とともに観察とケアを行い、リアルタイムで看護の視点や思考を伝えるように指導方法を周知した。学生の記録物における空欄は少なくなり、最後の実習となる統合実習では、学生による授業評価も大幅に向上した。

●2024 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

8階西病棟は、脳神経外科病棟で、脳血管障害、頭部外傷、硬膜下血種、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患などに対して、カテーテル治療・クリッピング手術等の外科的治療や、薬剤治療などの保存的治療、脳腫瘍に対する化学療法・放射線治療を行っている。入院早期より、患者家族が希望する生活の場への退院を見据え、医師、看護師、コメディカル、地域医療連携室と連携し、定期カンファレンスを行い、患者・家族へ安心安全な看護の提供に努めている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®](パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2 交替制(4 人夜勤)
- ・有資格者：救急医学会認定 ICLS インストラクター 1 名
摂食嚥下看護認定看護師 1 名
【院内認定】がん化学療法 11 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2023 年度	91.9%	24.5 日	43.7 人	24.1%
2024 年度	86.0%	21.0 日	40.6 人	基準①18.9%基準②22.2%

●その他、各部署の特徴的なデータ

	手術件数	血管内手術件数	脳血管造影検査件数
2023 年度	283	110	137
2024 年度	279	142	173

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 昨年度に引き続き、PNS[®]の推進に取り組んだ。パートナー間で意見交換し、患者に適した支援について考え、多職種連携することで、患者家族の思いに沿った安心安全な看護の提供に繋がった。また、先輩看護師と新人看護師がペアになることで、現場で OJT を行いながら、タイムリーな指導に繋がり、新人育成にも繋がった。
2. 患者にとって安全で最善な看護の提供を目指し、医師の協力を仰ぎ、年間を通して勉強会を行った。経験の浅い看護師だけでなく、ベテラン看護師も改めて疾患の治療や必要な看護について学びを得て、患者の状態に合わせた看護の提供、新人教育に繋がった。引き続き、看護の質の向上を目指して取り組みを継続していく。
3. 「脳神経外科病棟における身体解除に向けたフローチャートの有効性」というテーマで看護研究を行い、院内で発表を行った。フローチャートを用いて、スタッフ間でアセスメントしたが、抑制患者全員の終日抑制解除には至らなかった。しかし、注入食注入時以外の抑制解除、一日の内で数時間の抑制解除の患者の人数の増加に繋げることができた。引き続き、抑制解除に向けた取り組みを行っていく。

●2024 年度 学会・研究発表

1	脳神経外科病棟における身体拘束解除にむけたフローチャートの有効性	山田愛美	院内看護研究学会	2 月
---	----------------------------------	------	----------	-----

●はじめに

循環器・脳卒中センターとして、主に循環器系疾患・脳血管疾患患者の受け入れを行っている。主な疾患は、心不全、狭心症・慢性虚血性心疾患、睡眠時無呼吸症候群、頻脈性不整脈、閉塞性動脈疾患、脳梗塞などである。毎週、心不全患者の退院支援について検討する多職種カンファレンスを行い、今後の治療や患者の生活について多職種で考えている。また、高齢者や認知機能が低下した患者も多く、自宅退院だけでなく、転院や施設への入所を希望するケースも多いため、他職種との連携を図り、それぞれの患者の退院後の生活を見据えた支援を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2 交替制（3 人夜勤）
- ・有資格者：認知症看護認定看護師 1 名 心不全療養指導士 1 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2023 年度	92.2%	13.7 日	38.9 人	25.2%
2024 年度	86.3%	13.0 日	36.5 人	基準① 15.4%、基準② 21.4%

・その他

	心臓カテーテル検査	末梢血管形成術	カテーテル心筋焼灼術	
2023 年度	169 件	91 件	43 件	
2024 年度	142 件	48 件	64 件	
	ペースメーカー植え込み術	経皮的冠動脈形成術	上部内視鏡	下部内視鏡
2023 年度	25 件	46 件	100 件	43 件
2024 年度	30 件	27 件	40 件	73 件

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 2023 年度より開始した心不全患者の多職種カンファレンスが定着し、カンファレンス前後で担当者が情報収集、パンフレットを使用した指導を行い、受け持ち看護師と情報共有ができた。延べ 132 名のカンファレンスが実施できた。また、受け持ち看護師が退院に向けて指導ができるように、心不全患者への指導の勉強会を実施した。再入院となる原因を明確にして、個別性に合わせた退院指導が行えるようになった。外来への継続看護は 52 名実施できた。
2. 身体拘束最小化について、毎日のカンファレンスで身体抑制を解除できる方策について、どのような時間に身体抑制が解除できるのかなど、身体抑制最小化を目指し考えて実践できている。抑制の実施状況は 10.5%から 5%前後に減少した。認知症看護認定看護師による、認知症の症状と対応の仕方などの勉強会を行い、知識を深めた。
3. PNS 委員を中心に勤務交代時の引継ぎ方法、分担表作成、残務表の活用、看護補助者へのタスクシフトなど、業務の見直しを行った。総超過勤務時間は年間 4871 時間、前年より 519 時間減（9.7%）となった。

●2024 年度 院内看護研究発表

福原 祐子：看護師が内服自己管理アセスメントシートを使用する際の判断基準の検討

部署名 9階西病棟

看護師長名 藤川 佳世子

●はじめに

当病棟は整形外科・形成外科・皮膚科の混合病棟である。手術を受ける患者が多く、周手術期の異常の早期発見と苦痛の緩和に努めている。また、手術件数が年々増加する中で安心安全な療養生活が送れ、患者の望む生活の場に早期に戻れるように、日々、多職種で連携を取りながらケアを行っている。

リハビリや継続治療のために転院する大腿骨頸部・転子部骨折の患者には「大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」を使用し、継続したケアが提供できるように地域の回復期病院と連携している。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2交替制(3人夜勤)
- ・有資格者 【院内認定】がん化学療法 6名 消化器内視鏡 2名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2023年度	99.9%	21.9日	45.8人	39.1%
2024年度	96.6%	20.6日	44.3人	基準①32.8%基準②38.2%

・手術件数

	整形外科	形成外科	皮膚科	合計
2023年度	810件	113件	29件	952件
2024年度	838件	145件	25件	1,008件

・大腿骨頸部・転子部骨折 地域連携パス適応件数

2023年度	110件
2024年度	113件

●2024年度の活動、取り組み内容、成果

1. 予定入院のみならず緊急入院時も患者の望む生活の場に早期に戻れるように、退院支援に必要な情報がどのスタッフでも入院時に情報収集できるように地域医療連携室の担当看護師とともに情報収集テンプレートを作成した。作成したテンプレートをもとに入院時に患者、家族から退院支援に必要な情報を収集することで、病棟看護師は退院後の自宅での生活に目が向けられるようになり、日常生活動作の再獲得への支援や転院時のサマリー記載などへ繋がっている。
2. 前年度のインシデントにおいて、患者誤認が4件、中止薬の与薬が3件発生していたが、患者誤認、中止薬の与薬ともに2024年度は0件であった。患者確認の強化とインシデント発生時には、ナーシングスキルの当院手順を確認し、対策を講じることが定着してきている。そして、スタッフ間で情報共有することで問題意識を持てたことがインシデント減少につながったと考える。また、前年度発生した異食のインシデントが2度と起こらないようにKYTを実施した。ベッド周囲の環境整理、特に軟膏などは床頭台に整理する意識がついてきている。引き続き、安心・安全な看護の提供ができるようにKYTやカンファレンス等ディスカッションの場を確保、経験年関係なく活発に発言できる環境を作っていく。

●2024年度 学会・研究発表

なし

部署名 9階東病棟

看護師長名 上原 明美

●はじめに

主に耳鼻咽喉科・眼科・婦人科・呼吸器内科の患者を受け入れており、手術療法・化学療法・放射線療法についての看護を実践している。

耳鼻咽喉科：頭頸部がん・下咽頭がん・舌がん・耳下腺がん・甲状腺腫瘍・顔面神経麻痺・中耳炎・慢性副鼻腔炎・扁桃周囲膿瘍・扁桃腺炎・声帯ポリープ・突発性難聴など

呼吸器内科：肺がん・細菌性肺炎・間質性肺炎・誤嚥性肺炎など

婦人科：子宮・卵巢悪性腫瘍・子宮脱・子宮筋腫・卵巢囊腫など

眼科：白内障手術 2泊3日パス入院

●看護体制

・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)

・勤務体制：2交替制(3人夜勤)

・有資格者：【院内認定】 がん化学療法 8名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療看護必要度
2023年度	87.7%	13.8日	40.4人	26.4%
2024年度	81.3%	13.1日	37.4人	基準①：17.6%基準②：26.4%

●手術件数

	耳鼻咽喉科	眼科	婦人科	合計
2023年度	254件	96件	41件	391件
2024年度	318件	141件	299件	758件

●2024年度の活動、取り組み内容、成果

- 耳鼻科・婦人科の手術準備チェックリストと手順書を作成し使用を開始した。手術前準備や患者説明など統一した手術看護が実践できるようになった。また急変時対応ができるように耳鼻科領域における急変症例を振り返り、緊急気管切開時の対応についてマニュアルを作成した。
- 身体拘束を最小限にできるようにリシャッフル時にカンファレンスを行い検討できた。対応困難時には認知症ケア認定看護師に相談し、病棟全体で患者の状態を共有し身体拘束を最小限にとどめる取り組みを実践した。2024年度の入院患者における身体拘束率は、4月は6.1%（上肢または下肢）であったが、6月・7月・10月・11月・12月においては身体拘束率を0%にすることができた。
- 転倒転落アセスメントについて、PNSペアと患者の状態を確認し入力できている。離床センサー使用時は緩衝マットとの併用使用が定着できた。また、転倒のリスクの高い患者には日々カンファレンスを行いながら、必要に応じて理学療法士など多職種を交えて対策の検討ができています。転倒転落件数は2023年度39件であったが、2024年度は33件と6件減少した。

●2024年度 学会・研究発表

研究発表なし

部署名 10 階西病棟

看護師長名 酒見 大輔

●はじめに

当病棟は、呼吸器センターとして呼吸器内科・胸部外科の患者を受け入れており、肺がんや肺炎・慢性閉塞性肺疾患などの検査や診断、内科的治療、外科的治療を実施している。入院患者に安心・安全な看護を提供することができるよう、疾患や治療・看護に関する勉強会の実施や日々のカンファレンスを行いながらスタッフ教育を実施している。また、各診療科のカンファレンスを通して多職種と連携し、入院患者やその家族の希望に沿った退院支援を実施できるよう病棟全体で取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2 交替制（3 人夜勤）
- ・有資格者：【院内認定】がん化学療法 14 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度	
2023 年度	91.1%	14.2 日	42.3 人	24.6%	
2024 年度	84.6%	12.4 日	39 人	基準 1 20.1%	基準 2 30.0%

- ・その他、各部署の特徴的なデータ

	手術件数	化学療法(注射)件数	気管支鏡件数	インシデント件数
2023 年度	154 件	452 件	218 件	129 件
2024 年度	145 件	576 件	202 件	108 件

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 当病棟では肺癌に対する治療を受ける患者が最も多く、2024 年度の手術件数は 145 件、化学療法件数は 576 件であった。肺癌の治療や看護についての病棟内勉強会を実施するとともに、新しい抗癌剤については、製薬会社・薬剤科とも連携し、安全な化学療法を実施できるよう取り組みを行った。また、ELNEC-J コアカリキュラムやがんリハビリテーション研修への参加を促進し、ELNEC-J コアカリキュラムには 4 名、がんリハビリテーション研修には 1 名のスタッフが参加した。病棟内での伝達講習を実施し、がん患者の看護の質を維持・向上することができた。
2. 発生したインシデントをもとに病棟内でカンファレンスを実施し、類似したインシデントが繰り返し発生しないよう病棟全体で対策を考え、実践を行った。また、リハビリテーション科の協力を得て、自分で体を動かすことができない患者の良肢位の保持や、脱臼予防のための体位調整方法についての勉強会を実施するなど、看護だけではなく、多職種との連携を図りながらインシデント発生の予防を行った。2023 年度のインシデント発生件数は 129 件であったが、2024 年度は 108 件であり、インシデント発生件数の減少に繋げることが出来た。

●2024 年度 学会・研究発表

なし

部署名 10 階東病棟

看護師長名 寺戸 純子

●はじめに

10 階東病棟は、がんによる苦痛症状の緩和に対する治療およびケアを目的に実践している。常に患者と家族とのコミュニケーションを図りながら、その意向を確認し緩和ケアが 24 時間継続して提供されるように取り組んでいる。多くの診療科と調整をして、患者とその家族が安全・安心・安楽に療養生活を送ることができるように、日々のカンファレンスを通して多職種と連携している。

また、緩和ケア外来を併設し、診療が円滑に行えるように調整を行い、他院および在宅からの紹介患者の受け入れを行っている。

●看護体制

・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）

・勤務体制：3 交替制（2 人夜勤）

・有資格者：緩和ケア認定看護師 2 名 ICLS 研修受講者 15 名

ELNEC-J 研修受講者 12 名

【院内認定】がん化学療法 14 名 消化器内視鏡 5 名 PET-CT 1 名

●2024 年度 部署運営状況

病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	院外紹介患者数
70.3%	31.3 日	16.4 人	25 人

●2024 年度 緩和ケアセンター入棟者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
院内紹介	16	15	13	14	11	10	16	11	11	14	6	10	147
再入棟	2	1	1	2	0	2	4	3	2	1	1	0	19
院外紹介	2	1	2	2	3	5	1	1	2	3	1	2	25
合 計	20	17	16	18	14	17	21	15	15	18	8	12	191

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 緩和ケアの知識向上と専門性を発揮した看護を実践するために、病棟医・緩和ケア認定看護師の勉強会を 7 回実施した。前期と後期で 2 回の事例検討会を行い、勉強会後のミニテストにて習熟の確認を実施している。また、日々のオピオイド疼痛カンファレンスにて、患者の疼痛をアセスメントし看護計画の追加と修正をおこなったことで、患者に早期から専門的な緩和ケアが提供出来ている。
2. 病院経営への積極的貢献では、病床利用率は、昨年度 47.3%、今年度 68.1%と閉鎖前の稼働状況に近づき、院外紹介は昨年度 19 件、今年度 25 件と増えている。緩和ケア疼痛評価加算の取得を行うために、日々スタッフと入力状況に漏れがないことを確認した。
3. 安全で快適な療養環境の提供では、日々看護師長とリーダー看護師とともにラウンドをおこない、患者の療養環境が患者の ADL に合った環境となっているのかを療養環境チェックリストを作成し取り組み、修正点について担当看護師と検討をおこなった。この取り組みにより、転倒転落のインシデントが前期 11 件から後期 3 件へと減少した。

●院内研究発表

新井美穂：緩和ケア病棟における倫理カンファレンスによる看護師の意識と行動の変化

部署名 ICU

看護師長名 近藤 祐子

●はじめに

ICU は、NICU 対象患者以外の全ての呼吸・循環・代謝・その他の重篤な急性臓器機能不全患者、またはそれに至る可能性の高い患者（術後患者等）を受け入れている。幅広い分野での知識・技術が必要となるため、クリティカルケア認定看護師、救急看護認定看護師と共に、患者の状態変化時の早期対応や患者・家族の精神的サポートに努めている。また、多職種と連携を図り、早期回復を目指した看護の提供を心がけている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップナーシングシステム)
- ・勤務体制：3 交替制(5 人夜勤)
- ・有資格者：クリティカルケア認定看護師 2 名 呼吸療法認定士 5 名
集中治療認証看護師（ICRN） 3 名
【院内認定】 がん化学療法 5 名 消化器内視鏡 2 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	ICU 入室患者数	看護必要度
2023 年度	70.0%	10.9 日	6.9 名	2,529 名	85.7%
2024 年度	62.1%	10 日	6.1 名	2,225 名	89.8%

●2024 度の活動、取り組み内容、成果

1. 1 年目から 4 年目までの看護師に担当のクリニカルコーチを配置し、目標を設定して支援を行った。看護師長・副看護師長・クリニカルコーチで目標達成状況について情報共有し、看護師個々に合わせた指導計画に反映させた。シミュレーション研修を計画的に実施することで、1 年目看護師は入院受け入れや術後患者を受け持つことができるようになり、6 月から深夜勤務・8 月から準夜勤務を導入することができた。2 年目看護師が主体となり心筋梗塞や脳梗塞、心不全などの勉強会を行うことで 2 年目看護師自身の学習効率が上昇し、個別性のある看護に繋げることができた。3～4 年目看護師についても日々のペア間での情報共有の際に患者の病態をアセスメントし、自ら先輩看護師に情報発信するようになってきた。また救急外来で勤務できる看護師を 4 人増やすことができた。それにより部署全体のレベルアップに繋がり、緊急時の応援体制にも幅広く対応できるようになった。
2. 倫理カンファレンスを 8 回/年実施し、倫理的問題について意見交換を行った。ICU 入室時に、受け持ち看護師が患者本人や家族にオリエンテーションを行う際に倫理的問題がないか考えるようになった。状態が不安定な患者や家族支援等が必要な患者家族に対して、受け持ち看護師が積極的にカンファレンスを実施し、チーム内で対応策を立案し関わるようになった。
3. 働きがいのある職場、働き続けられる職場をつくるために、毎月の病棟相談会で業務について検討し見直しを行った。ICU 手順について見直しを行い、統一した看護の提供に繋げ、新人指導にも繋げることができた。

●2024 年度 学会・研究発表

【院外看護研究発表】

テーマ：当院における高流量鼻カヌー酸素療法フローチャート作成 ―使用例を用いた症例検討―
発表者：遠藤佳菜子

●はじめに

NICU6 床を有し、24 時間体制で機能する地域周産期母子医療センターとしての役割を担っており、在胎 32 週以降の早産児や近隣の開業医からの新生児搬送にも対応している。入院患者の主な疾患は、低出生体重児、早産児、呼吸障害、先天性心疾患、染色体異常、新生児仮死などであり、不安を抱える家族に寄り添った看護を行えるよう取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（夜勤 2 名）
- ・有資格者 アドバンス助産師 0 名・NCPR インストラクター 1 名・NCPR 資格取得者 10 名
- 【院内認定】がん化学療法 4 名 消化器内視鏡 0 名

●部署運営状況

	病床稼働率(%)	平均在院日数(日)	平均患者数(人)	救急入院率(%)
2023 年度	57.7	10.7	3.2	26.4
2024 年度	75.7	12.6	4.2	27.1

- ・その他 部署の特徴的なデータ（極低出生体重児は再掲）

	低出生体重児 (延数)	極低出生体重児 (延数)	新生児搬送 受け入れ(件)
2023 年度	546	40	20
2024 年度	523	50	27

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 出生後 NICU 入院となるリスクの高いハイリスク妊産婦に対して、産科医師、小児科医師、産科外来助産師、6 西病棟助産師、NICU スタッフで毎週カンファレンスを行い情報共有を行っていった。特に精神的・社会的問題を持つ褥婦とその児に対しては、6 西病棟と協同し、退院後早期に母子等要支援者連絡票を送付することで退院後も継続した支援が行えるように地域と連携を図った。
2. 6 西病棟とともに倫理的課題について多職種とカンファレンスを実施し、患児やその家族にとって最善の看護実践ができるように努めた。また、長期療養児の在宅へ向けた支援についても院内だけでなく、保健福祉センター、消防と連携して安心して在宅へ移行できるよう努めた。

●学会・研究発表（2024 年度）

1	NICU 独自のアクションカードの作成 -防災に対する知識や認識の変化を調査してから-	原野杏実	院内看護研究発表会	2 月
2	NICU 独自のアクションカードの作成 -防災に対する知識や認識の変化を調査してから-	原野杏実	山口県周産期医療研修会	3 月

●はじめに

当院の外来は総合病院として様々な診療科の診療と、外来化学療法、入院及び外来患者の血管撮影・血管内治療、内視鏡検査・治療を担当している。一日平均 516.1 名の患者が受診し、中央処置室では一日平均 165 名の患者の採血、注射、点滴、輸血、検査を実施している。また、当院は高度急性期医療、救急医療を担う役割があり、救急外来では 1 次～3 次の救急患者を 1 日平均 62 名、24 時間受け入れている。患者・家族との関わりは一般外来、救急外来ともに短時間ではあるが、倫理的配慮と信頼関係を大切にして、より安全で安心できる看護を心がけている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
 - ・勤務体制：3 交替制（救急外来）
 - ・有資格者：クリティカルケア認定看護師 1 名 がん化学療法看護認定看護師 1 名
- 【院内認定】
- PET-CT 看護 24 名 がん化学療法 18 名 内視鏡看護 20 名

●部署運営状況

延べ患者数

	一般外来	救急外来	化学療法室
2023 年	131, 043 人	15, 386 人	4, 554 人
2024 年	125, 419 人	14, 862 人	4, 034 人

延べ検査件数

	内視鏡	心臓カテーテル (ペースメーカー含む)	DSA
2023 年	9, 352 件	1, 324 件	551 件
2024 年	9, 514 件	1, 262 件	463 件

●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 転倒インシデントは 31 件(2023 年度：27 件)であった。各検査室や診察室までの移動時に転倒する事例がほとんどであるため、付き添いのない杖歩行の患者などには外来全体で車いす使用などの声かけや移動支援を行った。また、転倒注意のポスターを作成して掲示するなどの取り組みを継続して行った。
2. 患者・家族が不安なく納得して医療が受けられるように、日々行われる IC を各診療科が毎日報告し、IC に同席できるように日々のリーダー・看護師長等が業務調整を行い、患者・家族への意思決定支援に取り組んだ。IC への同席件数は、2023 年度は 869 件であったが、2024 年度は 952 件の IC に同席することができた。
3. 診療科の経験の少ない 17 名のスタッフに対して、技術チェックリストを用いた技術習得の支援を行った。不安なく、働き続けられる職場づくりのため副看護師長、PNS 委員が連携して取り組み、6 名が新たに対応可能な診療科を増やすことが出来た。
4. 退院時連絡票を活用して、外来から入院、自宅療養がスムーズに行えるように外来での患者の治療経過や関わりなどの記録を平均 103 件/月行い、継続看護ができるように病棟と情報共有を行い連携して患者支援を行えるように取り組むことができた。

●2024 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

当院の手術室は10室（うちハイブリット手術室1、ロボット支援手術用手術室1）あり、外科、心臓血管外科、脳神経外科、胸部外科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科、産婦人科、小児外科、形成外科、眼科、皮膚科の手術に対応している。当院は山口県東部の医療圏における高度急性期医療を担っており、麻酔科医師と看護師は、夜間・休日に待機当番制で365日24時間緊急手術に対応できるようにしている。2024年度は総手術件数が4,000件を超え、ロボット手術の件数も増加した。患者が安心して安全な手術が提供できるよう医師・看護師・臨床工学技士等さまざまな職種のスタッフが協力して、適正な手術室運用に取り組んでいる。

●看護体制

・看護方式：PNS®（パートナーシップ・ナーシング・システム）

・待機体制：平日22時～8時30分 待機当番看護師2名

土日祝日8時30分～20時30分、20時30分～8時30分 待機当番看護師2名

●部署運営状況

年間手術件数

	総手術件数	予定手術件数	臨時・緊急手術件数	全身麻酔件数
2023年度	3,953件	2,343件	1,610件	2,800件
2024年度	4,079件	2,507件	1,572件	2,903件

ロボット手術件数

	総件数	泌尿器科	外科	胸部外科
2023年度	166件	115件	45件	6件
2024年度	205件	132件	65件	8件

診療科別手術件数比較

	外科	胸外	心外	整形	脳外	形成	小児外	泌尿器	産婦人	耳鼻	皮膚	眼科
2023年度	682件	178件	236件	873件	416件	350件	39件	488件	236件	254件	103件	96件
2024年度	710件	178件	197件	919件	421件	374件	28件	477件	235件	282件	95件	162件

●2024年度の活動、取り組み内容、成果

- 2024年度は4,079件の手術を実施し、昨年度より126件増加となった。手術申し込み締め切り後に手術枠の空き状況をアナウンスし、各科の手術枠に限らず必要な手術は臨時手術、緊急手術として遅滞なく実施したことが手術件数の増加に繋がった。ロボット支援手術機械を最新型に更新し、各科とも件数が増加した。ロボット手術の際の危機的出血に対する緊急開腹を想定したシミュレーションを行い振り返り後は、課題が明確になった。
- エビデンスに基づいた手術看護を実践することを目標に勉強会を10回実施した。手順の改定が必要なものは100%改訂できた。最新の知見を得るために日本手術看護学会に2名参加し、学会で学んだことをスタッフへフィードバックした。
- 学生実習の充実を図るため実習指導講習会に1名参加し修了できた。実習が効果的に行えるように実習計画を立案し、各学校の教員と連携をとりながら実習の受け入れができた。

●2024年度 院内看護研究発表

田中 祐衣：帝王切開術における閉創時間中の母親の気持ちの調査

●はじめに

地域医療連携室は、地域医療の中核を担う医療機関の連携窓口として 1. 地域の診療所・病院との医療連携業務 2. 患者や家族、関係機関からの相談支援業務をおこなっている。

医療連携業務は、当院への受診や入院する際の予約や受け入れ調整、他機関との紹介に関する連携調整などをおこなっている。相談支援業務は、医療社会事業専門員、退院調整看護師が当院で治療を受けた患者が社会復帰していく中でおこる様々な生活の課題（医療面だけではなく生活の場所、介護、社会的、心理的、経済的など）に対して退院後の生活に困らないよう医療機関やケアマネージャー等の社会福祉機関、行政機関等と情報共有しながら退院・転院調整をおこなっている。

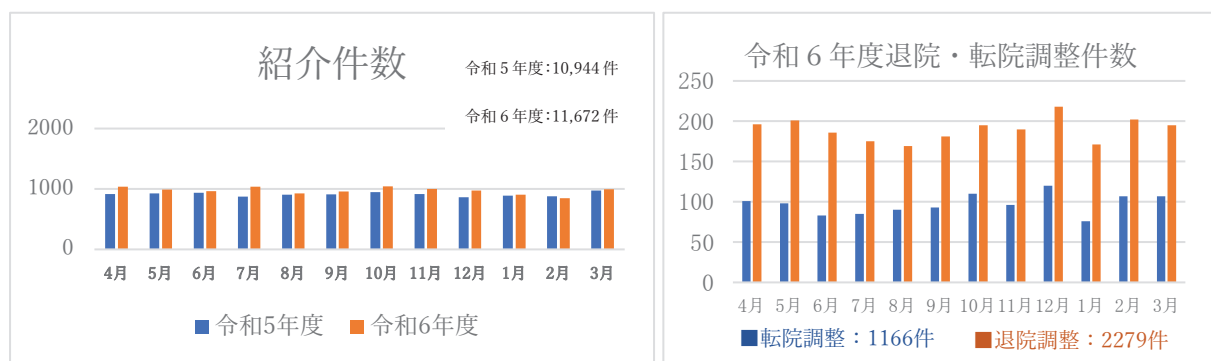
●部署運営状況

【職員配置】看護師 11 名、医療社会事業専門員 6 名、事務員 4 名

【有資格者】がん看護専門看護師 1 名、小児在宅移行支援指導者養成研修修了者 1 名

がん相談支援センター相談員基礎研修修了者 3 名

入退院支援に関する実践力向上研修修了者 4 名、脳卒中療養相談士研修修了者 7 名



●2024 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 関連医療機関と連携を行い、2024 年度の紹介件数は 11,672 件と、前年度より 728 件増加した。
2. 連携室での入退院支援加算 1 の加算取得件数は 1,319 件であり、前年度より 130 件増加した。
3. 患者・家族が安心して在宅療養出来る様、入院時より早期にケアマネージャーと情報共有、サービス調整をおこない、介護支援等連携指導料を 62 件取得出来た。
4. 令和 6 年度の在宅復帰率は 97.7%を維持しており、地域支援病院の施設基準を満たした。

●2024 年度 学会・研究発表

A 施設の看護師のがん看護に関する困難感の変化	上田佳奈	第 37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会	6 月
がん相談支援センターの利用者の傾向	上田佳奈	第 25 回日本赤十字看護学会学術集会	7 月
超高齢救急患者の退院支援の現状と課題	竹森佳代子	第 78 回国立病院総合医学会	10 月

●はじめに

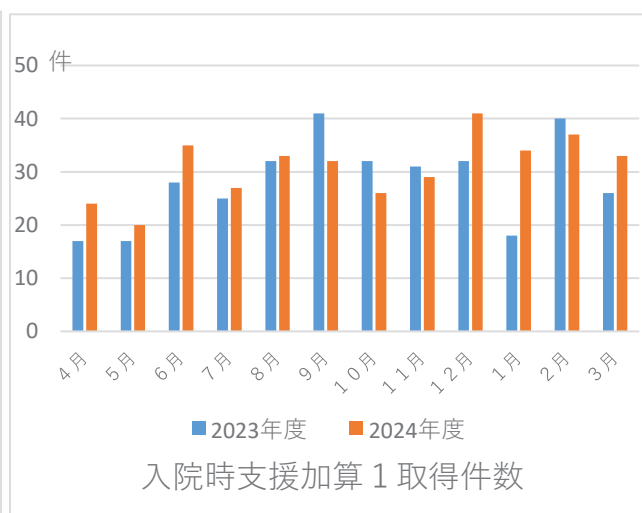
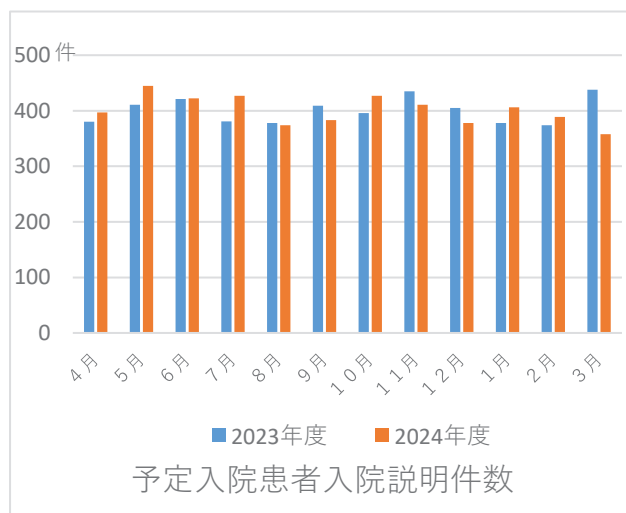
入退院センターでは、入院が決まった患者や家族が入院生活や治療計画についてイメージすることができ、安心して入院生活を送ることができるように入院説明を行っている。また面談を通して病歴やアレルギーの有無、入院及び退院にかかわる問題について情報収集を行っている。面談を通して患者や家族から得た情報は、担当医師や病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW などに入院前カンファレンスで情報提供を行い病棟の看護計画の立案や退院支援に繋げている。

●看護体制

- ・勤務体制 日勤勤務
- ・有資格者

院内認定がん化学療法看護師 2 名 院内認定消化器内視鏡看護師 2 名

●部署運営状況



●2024 年度活動、取り組み内容、成果

1. 2024 年度の予定入院患者 5283 名中 4817 名（88.8%）に対し入院説明を行った。そのうち初回入院患者は 1755 名で 2023 年度の 1717 名より増加している。家族が説明に同席できなかった場合に、必要に応じて後日の家族説明や電話での説明を行うなどしたことで、患者・家族から「安心して入院に臨める」との意見があった。
2. 入院前カンファレンスでは 475 件（令和 5 年度 440 件）の情報提供を行い、入院時支援加算 1 を 371 件（令和 5 年度 339 件）取得した。「介護認定が必要」「基礎疾患があり支援が必要」「入所施設との連携が必要」などの情報提供を行うことで、早期退院支援につなげることができた。
3. 入退院支援にかかわる加算や社会保障制度に関する勉強会を 4 件/年行った。社会資源の活用などの知識を得ることで、退院後の生活を見据えた入院説明ができるようになった。
4. 入院説明した患者 43 名に対して入院後に聞き取り調査を行った。説明時の看護師の会話速度や声の大きさなどを改善した。入院説明に対する満足度は 2023 年度 89%から 2024 年度は 91%に向上した。

●2024 年度 学会・研究発表

研究発表なし

【研究活動業績】

1.論文

消化器内科

1	Shoichiro Hirata, Kenta Hamada, Masaya Iwamuro, Hirokazu Mouri, Koji Miyahara, Takao Tsuzuki, Kenji Yamauchi, Sayo Kobayashi, Sakuma Takahashi, Ryuta Takenaka, Shinichiro Hori, Masafumi Inoue, Tatsuya Toyokawa, Mamoru Nishimura, Shuhei Ishiyama, Jiro Miyaake, Ryo Kato , Minoru Matsubara, Naoko Yunoki, Hiromitsu Kanzaki, Yoshiro Kawahara, Hiroyuki Okada, Hideki Ishikawa, Motoyuki Otsuka; Okayama Gut Study Group; Rates and risk factors of bleeding after gastric endoscopic submucosal dissection with continuous warfarin or 1-day withdrawal of direct oral anticoagulants Journal of Gastroenterology and Hepatology. 2024 Dec;39(12):2760–2766. Epub 2024 Oct 3.
2	山崎 泰史, 岩室 雅也, 川野 誠司, 田中 彰一, 田中 健大 特集 消化管粘膜下腫瘍のすべて [十二指腸] 十二指腸粘膜下腫瘍の内視鏡診断 消化器内視鏡 36巻7号 Page1033–1038 2024年7月

呼吸器内科

1	Naoki Nakamura, Go Makimoto, Takaaki Tanaka, Yuka Kato, Isao Oze, Toshiyuki Kozuki, Toshihide Yokoyama, Hirohisa Ichikawa, Shoichi Kuyama , Naofumi Hara, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Hotta; A randomized, open-label phase II study on the preventive effect of goshajinkigan against peripheral neuropathy induced by paclitaxel-containing chemotherapy: The OLCSG2101 study protocol Respiratory Investigation. 2024 Sep; 62(5):897–900. Epub 2024 Aug 7.
2	Kazuhiro Nakashima, Hiroaki Kodama, Haruyasu Murakami, Toshiaki Takahashi, Keita Kawakado, Takashi Yanagawa, Kashi Kitani, Takamasa Hottta, Masaaki Abe, Kosuke Hamai, Takuya Tanimoto, Nobuhisa Ishikawa, Tomoki Tamura , Shoichi Kuyama , Takeshi Isobe, Yukari Tsubata; Comparison of efficacy of gefitinib and osimertinib for untreated EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer in patients with poor performance status Respiratory Investigation. 2024 Nov;62(6):1137–1141. Epub 2024 Oct 3.
3	Keisuke Shiraha , Tomoki Tamura , Taisaku Koyanagi , Takahiro Umeno , Kazuya Nishii , Shoichi Kuyama ; Ramucirumab-induced ascites with endothelial growth factor receptor mutation-positive non-small cell lung cancer: Two case reports Respirology Case Reports. 2024 Oct 14;12(10):e70046. eCollection 2024 Oct.
4	Takeshi Masuda, Yukari Tsubata, Kojiro Hata, Mika Horie, Katsuyuki Kiura, Nobuhiro Kanaji, Takuya Inoue, Masahiro Kodani, Masaaki Yanai, Kakuhiro Yamaguchi, Naoko Matsumoto, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Ken Masuda, Nagio Takigawa, Shoichi Kuyama , Tetsuya Kubota, Kazuya Nishii , Katsuyuki Hotta, Noboru Hattori; Efficacy of immune checkpoint inhibitors according to programmed cell death-ligand 1 expression in patients with non-small cell lung cancer and brain metastasis: A real-world prospective observational study Thoracic Cancer. 2024 Dec;15(34):2408–2417. Epub 2024 Oct 16.
5	Hisao Higo, Hirohisa Ichikawa, Yukako Arakawa, Yoshihiro Mori, Tomoki Tamura , Shoichi Kuyama , Chiaki Matsumoto, Keisuke Sugimoto, Noboru Hamada, Toshimitsu Suwaki, Junko Itano, Yasushi Tanimoto, Satoru Senoo, Akihiko Taniguchi, Yumi Inukai, Machiko Arita, Satoko Makimoto, Katsuhide Kojima, Takashi Matsushita, Yoshinobu Maeda, Nobuaki Miyahara; The Clinical Significance of Interstitial Pneumonia with Autoimmune Features in Cryptogenic Organizing Pneumonia: A Prospective Multicenter Observational Study Journal of Clinical Medicine. 2024 Nov 15;13(22):6870.
6	Masataka Taoka, Eiki Ichihara, Toshihide Yokoyama, Koji Inoue, Tomoki Tamura , Akiko Sato, Naohiro Oda, Hirohisa Kano, Kayo Nakamura, Haruyuki Kawai, Masaaki Inoue, Nobuaki Ochi, Nobukazu Fujimoto, Hirohisa Ichikawa, Chihiro Ando, Isao Oze, Katsuyuki Kiura, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Hotta; Frequency and Significance of Body Weight Loss During Immunochemotherapy in Patients with Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Cancers. 2024 Dec 6;16(23):4089.
7	Isamu Okamoto, Shoichi Kuyama , Nicolas Girard, Shun Lu, Fábio Franke, Ziming Li, Pongwut Danchaivijitr, Ji-Youn Han, Jong-Mu Sun, Shunichi Sugawara, Edward Pan, Natalie Ren, Aiyang Chen, Rachana Rajagopalan, Aaron E Lisberg; TROPION-Lung07: Phase III study of Dato-DXd + pembrolizumab ± platinum-based chemotherapy as 1L therapy for advanced non-small-cell lung cancer Future Oncology. 2024;20(37):2927–2936. Epub 2024 Oct 29.
8	Tomoki Tamura , Hiroya Okano , Taisaku Koyanagi , Takahiro Umeno , Kazuya Nishii , Shoichi Kuyama ; Dupilumab-induced Diffuse Alveolar Hemorrhage Internal Medicine. 2025 Jan 1;64(1):109–112. Epub 2024 May 16.

循環器内科

1	Tadashi Wada , Keita Matsuo , Shin Takayama , Masahiko Ochi , Yurie Arisuda , Hiroaki Akai , Yuji Koide , Hiroaki Otsuka , Kenji Kawamoto , Machiko Tanakaya , Yusuke Katayama ; Identification of epicardial connections can improve the success rate of first-pass right pulmonary vein isolation Heart Rhythm O2. 2024 Apr 2; 5(5):266–273. eCollection 2024 May.
2	Keiichiro Iwasaki, Toru Miyoshi, Chikara Urabe, Satoru Sakuragi , Yusuke Kawai, Soichiro Fuke, Masayuki Doi, Atsushi Takaishi, Takefumi Oka, Naoto Tokunaga, Hiroshi Ito; Impact of Serum Indoxyl Sulfate on One-Year Adverse Events in Chronic Kidney Disease Patients with Heart Failure Journal of Clinical Medicine. 2024 Jul–26; 13(15):4384.

3	Tomofumi Mizuno, Nobuhiro Nishii, Hiroshi Morita, Takuro Masuda, Akira Ueoka, Saori Asada, Yoshimasa Morimoto, Masakazu Miyamoto, Satoshi Kawada, Tadashi Wada , Shigeki Hiramatsu, Keisuke Okawa, Motoki Kubo, Koji Nakagawa, Atsuyuki Watanabe, Kazufumi Nakamura, Shinsuke Yuasa; Differences in clinical significance of atrial tachyarrhythmias in idiopathic ventricular fibrillation vs Brugada syndrome: A multicenter study Heart Rhythm O2. 2024 Sep 11;5(11):796–804. eCollection 2024 Nov.
4	村田 憲郁, 和田 匡史, 齋藤 宇亮, 松尾 啓太, 越智 正彦, 高山 伸, 村田 有里恵, 赤井 弘明, 小出 祐嗣, 大塚 寛昭, 川本 健治, 田中屋 真智子, 片山 祐介 アミオダロン誘因性肺障害としての肺胞出血を発症した1例 心臓 56巻4号 Page391–396 2024年4月
5	和田 匡史 【患者さんの服薬アドヒアランス向上につながる関わり方 循環器薬の作用機序と使い方 疑問・質問スパッと解決!説明上手への道】使い分けとその根拠、理解できている?抗不整脈薬の作用機序と使い方 ハートナーシング 37巻8号 Page735–744 2024年8月
6	竹谷 菜子, 高山 伸, 河口 達登, 齋藤 宇亮, 村田 有里恵, 赤井 弘明, 小出 祐嗣, 大塚 寛昭, 和田 匡史, 川本 健治, 田中屋 真智子, 片山 祐介 診断に苦慮した高齢女性の左室右房交通症の1例 心臓 56巻10号 Page972–978 2024年10月

血液内科

1	Wataru Kitamura , Hiroki Kobayashi, Minori Noda , Akiko Iseki , Yumi Sato , Yoshinobu Maeda, Shoichi Kuyama ; Spontaneous regression of multiple solitary plasmacytoma harboring Epstein–Barr virus: a case report and literature review International Journal of Hematology. 2024 Jul; 120(1):128–134. Epub 2024 Apr 15.
2	Toshiki Terao , Yumiko Sato , Yoshiaki Kuroda, Tomoka Haratake, Midori Filiz Nishimura, Yasuharu Sato, Shoichi Kuyama ; Discrepancy of Hans' criteria for clonally related nodal and pericardiac fluid diffuse large B-cell lymphoma with MYD88 L265P mutation Journal of Clinical and Experimental Hematopathology. 2024 Dec 25;64(4):318–322. Epub 2024 Nov 28.

小児科

1	Yusuke Toyota, Kazuhiro Uda, Komei Shirabe, Tadashi Moriwake ; Pediatric Severe Febrile Thrombocytopenia Syndrome: A Case Report and Literature Review Acta Medica Okayama. 2024 Oct;78(5):401–405.
---	--

外科

1	Kenji Fujiyoshi, Tomoya Sudo, Fumihiko Fujita, Shinichi Tanihara, Hideyuki Ishida, Satoki Shichijo, Akiko Chino, Toshiya Nagasaki, Akinari Takao, Kazuhito Sasaki, Kiwamu Akagi, Takaaki Matsubara, Hideki Ueno, Keiji Hirata, Yasuyuki Miyakura, Toshiaki Ishikawa, Eiji Sunami, Yusuke Takahashi, Tatsuro Yamaguchi, Kohji Tanakaya , Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Marital status after colorectal surgery in familial adenomatous polyposis: a nationwide multicenter study in Japan International Journal of Clinical Oncology. 2024 Sep;29(9):1274–1283. Epub 2024 May 31.
2	Hitoshi Minagi , Hideki Aoki , Susumu Doita , Eiki Miyake , Toshihiro Ogawa , Fumitaka Taniguchi , Megumi Watanabe , Takashi Arata , Koh Katsuda , Kohji Tanakaya ; A Case of Gallbladder Metastasis of Malignant Melanoma Acta Medica Okayama. 2024 Jun; 78(3):291–294.
3	Akiko Chino, Kohji Tanakaya , Takeshi Nakajima, Kiwamu Akagi, Akinari Takao, Masayoshi Yamada, Hideyuki Ishida, Koji Komori, Kazuhito Sasaki, Masashi Miguchi, Keiji Hirata, Tomoya Sudo, Yasuyuki Miyakura, Toshiaki Ishikawa, Tatsuro Yamaguchi, Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Colorectal cancer and advanced adenoma characteristics according to causative mismatch repair gene variant in Japanese colorectal surveillance for Lynch syndrome Journal of Gastroenterology. 2024 Aug; 59(8):699–708. Epub 2024 Jun 21.
4	Misato Takao, Tatsuro Yamaguchi, Hidetaka Eguchi, Okihide Suzuki, Yoshiko Mori, Noriyasu Chika, Takeshi Yamada, Yasushi Okazaki, Naohiro Tomita, Tadashi Nomizu, Tomoyuki Momma, Tetsuji Takayama, Kohji Tanakaya , Kiwamu Akagi, Noriko Tanabe, Hideyuki Ishida; Predictive modeling for the germline pathogenic variant of the APC gene in patients with adenomatous polyposis: proposing a new APC score Surgery Today. 2025 Feb;55(2):229–237. Epub 2024 Jul 6.
5	Susumu Doita , Fumitaka Taniguchi , Toshihiro Ogawa , Megumi Watanabe , Kohji Tanakaya , Hideki Aoki ; Two cases of sigmoid colon cancer with intussusception prolapsing through the anus in adults: consideration of preoperative reduction and surgical approaches: case reports AME Case Report. 2024 May 27; 8:61. eCollection 2024.
6	Yuji Urabe, Shiro Oka, Hideki Ishikawa, Takeshi Nakajima, Kohji Tanakaya , Tetsuji Takayama, Hideyuki Ishida, Shinji Tanaka; Lynch Syndrome Screening and Surveillance Trends among Gastroenterologists in Japan: A Questionnaire Survey-based Analysis Internal medicine. 2024 Oct 25.
7	Nobuhiko Kanaya, Thijs A van Schaik, Hideki Aoki , Yumiko Sato , Fumitaka Taniguchi , Kunitoshi Shigeyasu, Kokichi Sugano, Kiwamu Akagi, Hideyuki Ishida, Kohji Tanakaya ; High risk of multiple gastric cancers in Japanese individuals with Lynch syndrome Annals of Gastroenterological Surgery. 2024 Apr 22;8(6):1008–1016. eCollection 2024 Nov.

8	Hideki Aoki; Changes over time in treatment for obstructive jaundice World Journal of Gastrointestinal Surgery. 2024 Oct 27;16(10):3074–3077.
9	Susumu Doita, Megumi Watanabe, Toshihiro Ogawa, Kohji Tanakaya, Hideki Aoki; Utility of Follow-Up Computed Tomography (CT) and Fluorodeoxyglucose-Positron Emission Tomography/CT (FDG-PET/CT) in Diagnosing Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) Presenting as Spontaneous Hemoperitoneum: A Case Report Cureus. 2024 Sep 20;16(9):e69799. eCollection 2024 Sep.
10	毛利 謙吾, 渡邊 めぐみ, 土井田 進, 三宅 英輝, 鳩野 みなみ, 梶岡 裕紀, 小川 俊博, 谷口 文崇, 荒田 尚, 勝田 浩, 田中屋 宏爾, 青木 秀樹 原発性小腸癌9例の検討 癌と化学療法 51巻13号 Page1690–1692 2024年12月
11	三宅 英輝, 谷口 文崇, 野坂 未公音, 毛利 謙吾, 佐藤 真歩, 鳩野 みなみ, 梶岡 裕紀, 小川 俊博, 渡邊 めぐみ, 荒田 尚, 勝田 浩, 田中屋 宏爾, 青木 秀樹 腸回転異常症を伴う横行結腸癌の1例 癌と化学療法 51巻13号 Page1425–1427 2024年12月
12	谷口 文崇, 三宅 英輝, 野坂 未公音, 毛利 謙吾, 土井田 進, 鳩野 みなみ, 梶岡 裕紀, 小川 俊博, 渡邊 めぐみ, 荒田 尚, 勝田 浩, 青木 秀樹, 田中屋 宏爾 90歳以上超高齢大腸癌手術の短期・長期成績と問題点 癌と化学療法 51巻13号 Page1366–1368 2024年12月
13	渡邊 めぐみ, 野坂 未公音, 毛利 謙吾, 佐藤 真歩, 三宅 英輝, 梶岡 裕紀, 小川 俊博, 谷口 文崇, 荒田 尚, 勝田 浩, 田中屋 宏爾, 青木 秀樹 卵巣転移を契機に発見され化学療法後に腹腔鏡下噴門側胃切除術を行った胃癌の1例 癌と化学療法 51巻13号 Page1330–1332 2024年12月

胸部外科

1	Mototsugu Watanabe, Tomoki Tamura, Noriaki Shiraha, Kanau Sonobe, Kaoru Kondo, Toshio Shiotani; Preoperative respiratory assessment predicts post-operative survival in stage IA non-small cell lung cancer Journal of Thoracic Disease. 2024 Jun 30;16(6):3864–3872. Epub 2024 Jun 19.
2	Katsuhiko Shimizu, Masao Nakata, Shinsuke Saisho, Masayuki Inubushi, Norihito Okumura, Tomohiro Murakawa, Motohiro Yamashita, Hiroshige Nakamura, Yoshifumi Sano, Kazuhiko Kataoka , Shinichi Toyooka; Predictive Value of PERCIST for Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Preoperative Induction Therapy – A Multicenter Study in Japan Cancer Management and Research. 2024 Jul 30;16:965–976. eCollection 2024.
3	Toshio Shiotani, Kaoru Kondo, Shinichi Furukawa, Mototsugu Watanabe; Usefulness of Preoperative Prognostic Nutritional Index in Secondary Spontaneous Pneumothorax Annals of Thoracic Surgery Short Reports. 2024 Jun 28;2(4):624–628. eCollection 2024 Dec.
4	Kei Matsubara, Hiromasa Yamamoto, Riki Okita, Shinji Otani, Mototsugu Watanabe , Tsuyoshi Ueno, Toshiharu Mitsuhashi, Takashi Tanaka, Takao Hiraki, Shinichi Toyooka; Okayama University Thoracic Surgery Study Group Impact of C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio on Lung Cancer With Interstitial Pneumonia Annals of Thoracic Surgery Short Reports. 2024 Jul 15;2(4):603–607. eCollection 2024 Dec.

形成外科

1	Asami Tozawa, Hideki Mori, Masakazu Ao , Ritsuko Miyauchi, Yasumi Tsuji, Mayu Matsumoto, Masamoto Murakami, Hiroki Nakaoka, Yasuhiro Fujisawa; Factors for Improving Diagnosis of Skin Tumors Journal of plastic and reconstructive surgery. 2023 Sep 8;3(1):29–33. eCollection 2024 Jan 27.
---	---

心臓血管外科

1	小川 達也, 山本 剛, 吉田 文哉, 大谷 悟 腸管虚血を伴った急性大動脈解離Stanford AIに上腸間膜動脈バイパス, ICG蛍光法が有効であった一例 日本血管外科学会雑誌 33巻3号 Page173–178 2024年5月
2	吉田 文哉, 山本 剛, 小川 達也, 大谷 悟 抗菌薬加療後に人工血管置換術を施行した梅毒性胸部大動脈瘤の1例 日本血管外科学会雑誌 33巻4号 Page213–217 2024年7月
3	前田 聖和, 山本 剛, 小川 達也, 吉田 文哉, 大谷 悟 早期生体弁機能不全を併発した人工弁感染性心内膜炎に対する大動脈弁再置換術の1例 胸部外科 78巻2号 Page126–129 2025年2月

産科・婦人科

1	Yoshinori Tani, Keiichiro Nakamura, Masae Yorimitsu, Noriko Seki, Mie Nakanishi, Hironori Itou , Miyuki Shimizu, Dan Yamamoto, Etsuko Takahara, Hisashi Masuyama; Lymphadenectomy and chemotherapy are effective treatments for patients with 2023 international federation of gynecology and obstetrics stage IIC-high risk endometrial cancer in Japan International Journal of Clinical Oncology. 2025 Jan;30(1):144–156. Epub 2024 Nov 9.
---	--

薬剤部

1	Kenichi Suzuki, Takashi Yokokawa, Takashi Kawaguchi, Shinya Takada, Shinya Tamaki, Yohei Kawasaki, Takumi Yamaguchi, Kei Koizumi, Takuma Matsumoto , Yukio Sakata, Yuichiro Arakawa, Hideaki Ayuhara, Mari Hosonaga, Masakazu Yamaguchi, Daiki Tsuji; A multicenter, phase II trial of triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant, and olanzapine for highly emetogenic chemotherapy in breast cancer (PATROL-II) Scientific Reports. 2024 Nov 16;14(1):28271.
---	---

放射線科(コメディカル)

1	Yuki Tanimoto, Masataka Oita, Kazunobu Koshi, Kiyoshi Ishiwaki , Futoshi Hiramatsu, Toshihisa Sasaki, Hiroki Ise, Takashi Miyagawa, Takeshi Maeda, Shinsuke Okahira, Takashi Hamaguchi, Tatsuya Kawaguchi, Norihiro Funada, Shuhei Yamamoto, Akira Hiroshige, Yuki Mukai, Shohei Yoshida, Yoshiki Fujita, Atsuki Nakahira, Hirofumi Honda Standardization of radiation therapy quality control system through mutual quality control based on failure mode and effects analysis Radiological Physics and Technology. 2025 Mar;18(1):78-85. Epub 2024 Nov 18.
---	---

2.学会発表・講演等

内科

1	白木 照夫	当院における医師に対するACP普及活動 ～本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会での学びを取り入れて～	第29回 日本緩和医療学会学術大会	2024/6/14
2	白木 照夫	当院における麻薬自己管理の推進 ～2023年日本緩和医療学会発表からの院内伝達研修会による～	第29回 日本緩和医療学会学術大会	2024/6/14
3	白木 照夫	当院における臨床倫理教育活動 ～倫理的对立により麻薬自己管理が困難であった症例及び終末期の告知に関する症例を通じて～	第29回 日本緩和医療学会学術大会	2024/6/14

消化器内科

1	田中 彰一	Mantisクリップを用いた胃ESD後粘膜欠損閉鎖に関する検討ーROLMとの比較を含めてー	第133回 日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2024/12/14
2	田口 健一	Lynch症候群に合併した胃底腺型腺癌の1例	第121回 日本消化器病学会中国支部例会	2024/6/8
3	浜田 健太郎	無治療経過観察で自然消失した胃限局性アミロイドーシスの1例	第132回 日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2024/7/14
4	辻野 友樹	切除不能肺癌に対するGEM+nab-PTX療法で発症した薬剤性肺障害の検討	第55回 日本肺癌学会大会	2024/7/25
5	山崎 奈波	食道壁内気管支原性嚢胞の1例	第8回 岡山消化器病フォーラム	2024/9/26
6	矢鍋 之照	幽門狭窄を来した胃MALTリンパ腫の1例	第122回 日本消化器病学会中国支部例会	2024/12/14
7	山崎 奈波	術前診断が困難であった食道壁内気管支原性嚢胞の1例	第122回 日本消化器病学会中国支部例会	2024/12/14

呼吸器内科

1	久山 彰一	Enhancing Geriatric Assessment Implementation in Japan : Insights from the ENSURE-GA Study.	SIOG2024年次会議	2024/10/17
2	久山 彰一	J-TAIL2 高齢者機能評価(G8)の報告:切除可能な進行/再発のNSCLC又はED-SCLCに対するアテゾリズマブ併用療法の観察研究	第65回 日本肺癌学会学術集会	2024/10/31
3	久山 彰一	A retrospective observational study on theefficacy of local ablative therapy for oligoprogression in non-small cell lung cancer patients who responded to immunotherapy combined chemotherapy.	ESMO Asia Congress 2024	2024/12/5
4	田村 朋季	呼吸器疾患終末期患者に対するオピオイドとその他の鎮静の使用実態	第64回 日本呼吸器学会学術講演会	2024/4/5
5	西井 和也	EGFR遺伝子変異肺がんの治癒を目指して研究に挑んだ一臨床医の軌跡	第64回 日本呼吸器学会学術講演会	2024/4/5
6	吉山 大貴	診断に苦慮した血管肉腫胸膜転移の一例	医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024東京	2024/4/12
7	堀口 裕紀	大動脈壁血栓を疑い大動脈弓置換術を施行し、大動脈原発Intimal sarcomaと診断した一例	医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024東京	2024/4/12

8	田中 沙蘭	VV-ECMOの導入により救命できた重症インフルエンザ肺炎の2例	第130回 日本内科学会中国地方会	2024/5/26
9	濱崎 楓子	飼い猫からの感染が考えられた重症熱性血小板減少症候群の1例	第130回 日本内科学会中国地方会	2024/5/26
10	田村 朋季	気管支鏡検査後に膿胸を併発し致死的経過をたどった肺ムコール症の一例	第47回 日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2024/6/27
11	西郷 聖人	Capnocytophaga属菌による肺化膿症とKlebsiella pneumoniaeによる肝膿瘍を同時に合併し、治癒できた一例	第70回 日本呼吸器学会中国・四国地方会 第62回 日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2024/7/19
12	吉山 大貴	ステロイド開始後に紹介となり、気管支鏡検査にて診断した肺結核・気管支結核の一例	第70回 日本呼吸器学会中国・四国地方会 第62回 日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2024/7/19
13	山崎 奈波	治療中ST合剤変更を要したHIV関連ニューモシス肺炎の3症例の臨床的特徴	第70回 日本呼吸器学会中国・四国地方会 第62回 日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2024/7/19
14	田村 朋季	悪性中皮腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の有害事象と効果は相関する	第5回 日本石綿・中皮腫学会学術集会	2024/9/29
15	岡本 裕成	ニボルマブ治療中止後に脳炎を発症した悪性胸膜中皮腫の一例	第5回 日本石綿・中皮腫学会学術集会	2024/9/29
16	堀口 裕紀	A case of small intestinal metastasis of malignant pleural mesothelioma diagnosed by surgery	第78回 国立病院総合医学会	2024/10/18
17	谷 美沙紀	オシメルチニブ導入により潰瘍性大腸炎様腸炎を発症した1例	第131回 日本内科学会中国地方会	2024/10/19
18	大津山 彩子	急速に進行したST合剤耐性Nocardia pseudobrasiliensisによる肺ノカルジア症の1例	第131回 日本内科学会中国地方会	2024/10/19
19	田村 朋季	ベメトレキセド長期投与は腎機能低下のリスクとなる	第65回 日本肺癌学会学術集会	2024/10/31
20	白羽 慶祐	Ramucirumab+erlotinib治療中にramucirumab関連の腹水を認めたEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌の2例	第65回 日本肺癌学会学術集会	2024/11/1
21	田村 朋季	免疫複合療法にて6年間奏効を維持している進行肺腺癌の一例	第129回 周南医学会	2024/11/10
22	久山 彰一	ケースから学ぶirAEマネジメント ～重症/治療抵抗性症例に備える～	irAEマネジメントを学ぶ会	2024/4/19
23	久山 彰一	Cace Discussion ～より長期の生存を目指して～	LUNG CANCER SEMINAR for EXPART	2024/4/23
24	西井 和也	間質性肺炎の診療に必要なこと	中国若手ILDショートレクチャー	2024/4/23
25	久山 彰一	好酸球性重症喘息における治療戦略 ～バイオ製剤導入の障壁を取り除く為の当院の取り組み～	好酸球性重症喘息を語る会in岩国	2024/6/13
26	久山 彰一	肺がん治療とG-CSF	G-CSF講演会	2024/6/20
27	久山 彰一	エンハーツを使いこなすために	Lung Cancer Leaders' サロン	2024/6/21
28	久山 彰一	臨床試験と実臨床経験から考えるIpilimumab併用の位置付けと注意点	NSCLC Virtual Conference 西日本	2024/7/2

29	久山 彰一	呼吸器専門医が取り組む在宅診療とその限界	山口県呼吸ケアネットワークセミナー	2024/7/6
30	久山 彰一	高齢者NSCLC(Non-SQ)における薬物治療戦略	Lung cancer seminar in 浜田	2024/7/12
31	久山 彰一	COVID-19感染症に対するワクチンの重要性和最新情報	岩国内科医会 学術講演会 COVID-19予防セミナー	2024/7/26
32	久山 彰一	私が考える、イミフィンジ+イジユド+化学療法の使いどころ ～POSEIDON試験結果から読み解く、実臨床での治療アプローチ～	NSCLC・SCLC肺がん最新治療セミナー	2024/9/2
33	久山 彰一	進展型小細胞肺癌に対する免疫治療	肺がん免疫治療講演会	2024/9/13
34	田村 朋季	イミフィンジ+イジユド+化学療法の使いどころ	肺がん免疫治療講演会	2024/9/13
35	西井 和也	がん免疫治療におけるチーム医療	Clinical Lung Cancer Seminar in Iwakuni 2024	2024/9/18
36	久山 彰一	当院の制吐療法を中心とした支持療法の工夫 ーこれから目指す医療の形ー	East Yamaguchi Lung Cancer Treatment Webinar 2024	2024/10/8
37	田村 朋季	ドライバー遺伝子変異陰性 高齢者肺腺癌の治療戦略	East Yamaguchi Lung Cancer Treatment Webinar 2024	2024/10/8
38	久山 彰一	非専門医に伝えたい間質性肺炎の診かた	地域で考える間質性肺炎診療 in岩国	2024/10/23
39	田村 朋季	イミフィンジ+イジユド+化学療法の使いどころ	肺がん複合免疫治療講演会	2024/11/18
40	久山 彰一	EGFR陽性肺癌の個別化治療 up to date	Lung Cancer Seminar Expert in Iwakuni	2024/11/22
41	久山 彰一	ES-SCLC治療におけるCASPIANの役割	山口肺がん講演会	2024/12/9
42	久山 彰一	腫瘍免疫のTR/rTR	Clinical Lung Cancer Seminar in Iwakuni 2024	2024/12/13
43	久山 彰一	合併症がある症例に対する治療戦略 Driver遺伝子変異陽性肺癌の治療戦略 周術期の薬物療法	第4回 中国四国 Chugai Lung Cancer Practice Seminar	2025/2/15

循環器内科

1	片山 祐介	Bi-Radial DCAの成功例と不成功例	第30回 日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT)中国四国地方会	2024/9/7
2	村田 憲郁	症例から学ぶ：保存的治療を選択した胸痛患者に対してOFDIを施行した一例	第20回 中国地区心血管画像研究会	2024/4/20
3	越智 正彦	当院にて初回PCIを受けた90歳以上の超高齢者について、CONUT法を用いて予後を検討した	第130回 日本内科学会中国地方会	2024/5/26
4	村田 憲郁	冠動脈起始異常と上行大動脈の拡大を合併した、先天性大動脈2尖弁の重症大動脈弁狭窄症の一例	第130回 日本内科学会中国地方会	2024/5/26
5	和田 匡史	CATRO®最新モダリティを肺静脈隔離にどのように落とし込むか？ ～ベストなRFワークフローを考える～	第124回 日本循環器学会中国地方会	2024/6/22

6	松尾 啓太	PCI中の血栓形成に対し、抗血小板薬の薬効を評価し薬剤を追加した不安定狭心症の一例	第124回 日本循環器学会中国地方会	2024/6/22
7	今村 繭子	バルーン大動脈弁拡張術前後で僧帽弁狭窄症の重症度を評価し、経カテーテル大動脈弁置換術を施行した一例	第124回 日本循環器学会中国地方会	2024/6/22
8	相原 一輝	若年発症の原発性ALアミロイドーシスによって心不全を来した一例	第124回 日本循環器学会中国地方会	2024/6/22
9	西郷 聖人	右冠動脈の急性心筋梗塞における機械的合併症3例の検討	第124回 日本循環器学会中国地方会	2024/6/22
10	村田 憲郁	ステロイド導入によりペースメーカーを回避できた心臓限局性サルコイドーシスの1例	第124回 日本循環器学会中国地方会	2024/6/23
11	和田 匡史	High-density mapping of Koch's triangle during sinus rhythm in patient with and without atrioventricular nodal reentrant tachycardia.	第70回 日本不整脈心電学会学術大会	2024/7/19
12	今村 繭子	バルーン大動脈弁拡張術前後で僧帽弁狭窄症の重症度を評価し、経カテーテル的大動脈弁置換術を施行した3症例	第14回 日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会	2024/7/19
13	大塚 寛昭	Clinical Outcome of Using Drug Coated Balloon after Rotational Atherectomy or Orbital Atherectomy comparing with Complex Calcified Lesion	第32回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2024)	2024/7/25
14	越智 正彦	DCAによってsub-intima trackingを修正しえたLAD-CTOの一例	第32回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2024)	2024/7/25
15	松尾 啓太	Three cases of refractory coronary angina pectoris treated with Chinese herbal medicine	第32回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2024)	2024/7/25
16	今村 繭子	金属アレルギーを有する不安定狭心症患者に対してDCAによるステントレスPCIを施行した一例	第32回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2024)	2024/7/25
17	村田 憲郁	血管内結石粉碎術のバルーン拡張中に冠動脈解離を来した1例	第32回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2024)	2024/7/25
18	大塚 寛昭	19年前に対角枝より左冠動脈前下行枝へ突出された形で留置されたCYPHER®ステントをローターブレードで切除し、左冠動脈前下行枝にステント留置に成功した一例	第30回 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)中国四国地方会	2024/9/7
19	松尾 啓太	EVTにおいてFFR測定値を参考に治療介入の可否を決定した4例	第30回 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)中国四国地方会	2024/9/7
20	和田 匡史	岩国エリアでのデバイス管理連携について	第14回 中国四国臨床工学会	2024/9/22
21	有須田 有里恵	His直上の潜在性伝導路に対しクライオアブレーションが奏功した一例	第4回 日本不整脈心電学会中国・四国支部地方会	2024/10/26
22	松尾 啓太	高周波ワイヤ型心房中隔穿刺針VersaCross® RF solutionsの初期使用経験	第4回 日本不整脈心電学会中国・四国支部地方会	2024/10/26
23	大林 寛	左室心尖部血栓に悩まされた重症心不全の一例	第125回 日本循環器学会中国地方会	2024/11/30
24	難波 和希	心室細動で搬送され、左回旋枝の梗塞に対してカテーテル治療を行い、着用型除細動器で独歩退院した1例	第125回 日本循環器学会中国地方会	2024/11/30
25	木原 帆香	多発脳梗塞・くも膜下出血を合併した感染性心内膜炎に対して準緊急開胸手術を施行した一例	第125回 日本循環器学会中国地方会	2024/11/30
26	有須田 有里恵	重症心不全と思い加療していたら急変し、上腸間膜動脈塞栓症による腸管壊死をきたした一例	第125回 日本循環器学会中国地方会	2024/12/1

27	越智 正彦	チルト試験で混合型失神を認め、1年後に植込み型ループレコーダー(ILR)で約10秒間の洞停止を診断した1例	第125回 日本循環器学会中国地方会	2024/12/1
28	村田 憲郁	STEMI亜急性期に観察されたplaque rupture, 保存的加療は是か？	第35回 日本心血管画像動態学会	2025/1/17
29	和田 匡史	岩国医療センターの取り組み ～Focus-onを活用した病診連携～	第17回 植込みデバイス関連冬季大会	2025/2/21
30	和田 匡史	Novel application of very high-power very short-duration ablation for improving first-pass pulmonary vein isolation	第89回 日本循環器学会学術集会	2025/3/28
31	今村 繭子	A case of infective endocarditis complicated by multiple cerebral infarctions and subarachnoid hemorrhage undergoing semi-urgent surgery	第89回 日本循環器学会学術集会	2025/3/29
32	松尾 啓太	Novel lead-implantation technique in left bundle branch area pacing using the pigtail-target method.	第89回 日本循環器学会学術集会	2025/3/29
33	平原 知晃	A case of aorto-left atrial fistula with aortic prosthetic valve endocarditis	第89回 日本循環器学会学術集会	2025/3/29
34	和田 匡史	High-density Mapping under pacing from coronary sinus can unmask the atrial input of slow conduction in the atrioventricular node	第89回 日本循環器学会学術集会	2025/3/30

小児科

1	守分 正	山口県におけるマスキングの組織的取り組み	第8回 新生児スクリーニング全国ネットワーク会議	2025/2/7
2	谷 美沙紀	医学生が来院する子供に勉強と生活を支援する取り組み「不登校患者に社会との繋がりを提供した症例」	第15回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	2024/6/9
3	市来 章裕	在宅移行に向けて多職種連携を行った神経芽腫の12歳男児例	第144回 日本小児科学会山口地方会	2024/6/30
4	椎名 豪	重度の低酸素性脳症に続発した中枢性尿崩症＋多臓器不全の新生児例	第144回 日本小児科学会山口地方会	2024/6/30
5	有吉 俊樹	発熱が遷延したマイコプラズマ肺炎に対し糖質コルチコイドの投与を行った8例	第145回 日本小児科学会山口地方会	2024/10/27

外科

1	田中屋 宏爾	胃がん術後の予後因子の解析 Transmembrane protease serine 4(TMPS4)のバイオマーカーとしての有用性の検証 多施設共同研究(会議録)	第124回 日本外科学会定期学術集会	2024/4/18
2	田中屋 宏爾	家族性大腸癌の診断と治療ー現状と今後の課題ー Genotypeを考慮したAPC関連ポリポーシスの大腸腫瘍に対する医学的管理	第124回 日本外科学会定期学術集会	2024/4/20
3	田中屋 宏爾	知っておくべき消化器希少疾患:その臨床像と病態 消化器医師へのアンケート調査結果からみた本邦におけるリンチ症候群の診療動向	第110回 日本消化器病学会総会	2024/5/10
4	田中屋 宏爾	Lynch症候群に発生した皮膚腫瘍(Muir-Torre症候群)の検討	第62回 日本癌治療学会学術集会	2024/10/24
5	勝田 浩	StageIVB症例に対しICI併用療法とRTが著効した一例	第78回 日本食道学会学術集会	2024/7/3
6	谷口 文崇	大腸癌肝転移切除後再発予測因子の検討	第124回 日本外科学会定期学術集会	2024/4/18

7	渡邊 めぐみ	プレアルブミン値に基づく栄養介入が高齢者胃癌手術に及ぼす影響	第124回 日本外科学会定期学術集会	2024/4/18
8	荒田 尚	腋窩巨大脂肪腫の1切除例	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
9	渡邊 めぐみ	胃癌に対するロボット支援噴門側胃切除術・観音開き法再建の有用性	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
10	梶岡 裕紀	当院における腹腔鏡下肝切除の現状、腹腔鏡下胆嚢摘出術に必要な4つのこと、再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下ヘルニア修復術で大切なこと	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
11	小川 俊博	切除不能進行食道癌に対しICIを含めた集学的治療によりConversion Surgeryを施行した1例	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
12	野坂 未公音	乳癌術後、同側乳房に生じた血管肉腫	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
13	渡邊 めぐみ	腹腔鏡下観音開き法再建での手技の工夫をふまえて行う、ロボット支援観音開き法再建	第78回 手術手技研究会	2024/6/7
14	谷口 文崇	90歳以上超高齢大腸癌手術の短期長期成績と問題点	第46回 日本癌局所療法研究会	2024/6/21
15	渡邊 めぐみ	卵巣転移を契機に発見され、化学療法後に腹腔鏡下噴門側胃切除術を行った胃癌の1例	第46回 日本癌局所療法研究会	2024/6/21
16	三宅 英輝	腸回転異常症を伴う横行結腸癌の1例	第46回 日本癌局所療法研究会	2024/6/21
17	毛利 謙吾	原発性小腸癌9例の検討	第46回 日本癌局所療法研究会	2024/6/21
18	梶岡 裕紀	The fastest and best way to improve our surgical procedure for pancreaticoduodenectomy using anatomical profiling	第36回 日本肝胆膵外科学会・学術集会	2024/6/28
19	小川 俊博	保存的加療により治癒した縦隔内限局型特発性食道破裂の1例	第78回 日本食道学会学術集会	2024/7/4
20	梶岡 裕紀	内鼠径輪から脱出した膀胱ヘルニアに対してTAPP法による腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した2例	第19回 中国四国ヘルニア手術研究会	2024/7/5
21	毛利 謙吾	当院における食道異物症例の臨床的検討	第78回 日本食道学会学術集会	2024/7/5
22	梶岡 裕紀	再発鼠径ヘルニアに対するTAPPについて	第3回 合併症ゼロ・再発ゼロを目指したヘルニアセミナー	2024/7/12
23	谷口 文崇	80歳以上高齢者に対するpStageIII大腸癌に対する術後補助化学療法の意義	第79回 日本消化器外科学会総会	2024/7/18
24	渡邊 めぐみ	腹腔鏡下胃全摘術における食道空腸吻合(overlap法)を安全に行うための工夫	第79回 日本消化器外科学会総会	2024/7/18
25	梶岡 裕紀	内視鏡の拡大視と徹底的な鈍的剥離を用いたComplete CVSテクニックによる胆道含めた臓器損傷の予防	第79回 日本消化器外科学会総会	2024/7/18
26	三宅 英輝	A study of short-term outcomes in colorectal cancer patients over 80 years of age	第79回 日本消化器外科学会総会	2024/7/18
27	毛利 謙吾	A case of methotrexate-associated lymphoproliferative disorder diagnosed after intussusception	第79回 日本消化器外科学会	2024/7/19

28	渡邊 めぐみ	当院におけるclosed LECSの適応と手術手技	第16回 単孔式内視鏡手術研究会	2024/8/10
29	渡邊 めぐみ	腹腔鏡下上川法再建とロボット支援上川法再建での手技の工夫	第99回 中国四国外科学会	2024/9/6
30	野坂 未公音	乳癌術後に上部消化管内視鏡所見からCowden症候群の診断に至った1例	第21回 日本乳癌学会中国四国地方会	2024/9/20
31	梶岡 裕紀	外傷性十二指腸損傷、脾損傷に対するDCS後の二期的再建により経過良好だった1例	第16回 日本Acute Care Surgery学会学術集会	2024/9/27
32	梶岡 裕紀	脾頭十二指腸切除後の胆管炎に対する至適抗生剤の検討	第73回 日本感染症学会東日本地方会学術集会 第71回 日本化学療法学会東日本支部総会合同学会	2024/10/17
33	毛利 謙吾	急性胆嚢炎に対する至適抗生剤の検討	第73回 日本感染症学会東日本地方会学術集会 第71回 日本化学療法学会東日本支部総会合同学会	2024/10/17
34	渡邊 めぐみ	低侵襲手術時代の高齢者胃癌治療	第62回 日本癌治療学会学術集会	2024/10/24
35	谷口 文崇	80歳以上高齢大腸癌の予後規定因子と低侵襲手術の意義	第62回 日本癌治療学会学術集会	2024/10/25
36	毛利 謙吾	複雑性虫垂炎に対して行った Interval Appendectomy の症例検討	第37回 日本外科感染症学会	2024/11/7
37	谷口 文崇	ロボット支援直腸切除術のラーニングカーブ	第82回 山口県臨床外科学会	2024/11/9
38	小川 俊博	上縦隔郭清の定型化にむけて	第23回 EGI外科治療研究会	2024/11/9
39	野坂 未公音	術中所見から胆嚢捻転症の診断を得た1例	第129回 周南医学会	2024/11/10
40	渡邊 めぐみ	縦隔内食道残胃吻合における体腔内ダブルフラップ法再建	第54回 胃外科・術後障害研究会	2024/11/15
41	渡邊 めぐみ	高度進行胃癌・根治切除不能胃癌治療における手術療法の役割	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
42	梶岡 裕紀	感染症専門医の不在病院での外科医と感染管理認定看護師含めた多職種によるAST活動	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
43	梶岡 裕紀	技術認定医を目指す先生たちへのメッセージ：技術認定医を受けながら得られた技術と知識	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
44	梶岡 裕紀	当院の再発させない腹腔鏡下ヘルニア修復術(TAPP法)への挑戦	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
45	佐藤 真歩	若年性大腸癌の臨床的特徴	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
46	毛利 謙吾	低異型度虫垂粘液性腫瘍8例の検討	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
47	大林 寛	限局性悪性胸膜中皮腫の一切除例	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
48	谷 美沙紀	術前診断に難渋した低異型度虫垂粘液性腫瘍の一切除例	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21

49	谷口 文崇	地方の外科医が行うStage IV大腸癌に対する化学療法の実状と意義	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/23
50	渡邊 めぐみ	低侵襲噴門側胃切除術における観音開き法再建での手技の工夫	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
51	梶岡 裕紀	腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術手技とその教育、そして困難症例への対応	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
52	梶岡 裕紀	腹腔鏡下肝切除におけるルーティン	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
53	小川 俊博	当院でのTEP法の導入と教育	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
54	三宅 英輝	空腸憩室穿孔に対して腹腔鏡補助下小腸部分切除術を施行した一例	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
55	岡 詠吾	虫垂径から見た腹腔鏡下虫垂切除術の成績	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
56	東端 政樹	汎発性腹膜炎を伴う虫垂炎に対する腹腔鏡と開腹手術の比較検討	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/5
57	毛利 謙吾	絞扼性腸閉塞に対する腹腔鏡下手術の治療成績	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/6
58	谷口 文崇	術後炎症反応から紐解く直腸癌低侵襲手術の縫合不全	第37回 日本内視鏡外科学会総会	2024/12/7
59	渡邊 めぐみ	ロボット支援胃切除術導入後の短期成績の検討	第17回 日本ロボット外科学会学術集会	2025/3/8
60	渡邊 めぐみ	術前3D-CTシュミレーションに基づいた低侵襲胃癌手術	第97回 日本胃癌学会総会	2025/3/13
61	小川 俊博	腹腔鏡下にて切除した食道癌胸骨後経路再建後の胃管癌の1例	第97回 日本胃癌学会総会	2025/3/14
62	野坂 未公音	術中所見から胆嚢捻転症の診断を得た1例	第61回 日本腹部救急医学会総会	2025/3/20
63	毛利 謙吾	十二指腸水平脚憩室穿孔の1手術例	第61回 日本腹部救急医学会総会	2025/3/20
64	岡 詠吾	外傷性胆嚢損傷に対して胆嚢摘出を行った一例	第61回 日本腹部救急医学会総会	2025/3/20

胸部外科

1	渡邊 元嗣	RATS導入期のFusion Surgery	広島呼吸器Fusion Surgery	2024/5/18
2	渡邊 元嗣	Robot-Assisted Thoracoscopic Surgery導入の検討	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
3	白羽 範昭	手術で診断に至った頭皮原発血管肉腫肺転移の1例	第82回 山口県臨床外科学会	2024/5/26
4	渡邊 元嗣	当院における術後乳糜胸の治療	第41回 日本呼吸器外科学会	2024/5/30

5	近藤 薫	PACIFICレジメンによる治療後にサルベージ右S6区域切除術を行い、術後合併症に難渋した一例	第41回 日本呼吸器外科学会	2024/5/30
6	塩谷 俊雄	区域切除後の局所再発における治療成績	第41回 日本呼吸器外科学会	2024/5/31
7	白羽 範昭	術前診断が困難であった頭皮原発血管肉腫肺転移を有する続発性自然気胸の1例	第41回 日本呼吸器外科学会	2024/5/31
8	東端 政樹	腸重積を呈した肺癌術後大腸転移再発の一例	第41回 日本呼吸器外科学会学術集会	2024/5/31
9	園部 奏生	縦隔リンパ節生検により診断に至った右心室腫瘍を伴うIgG4関連疾患の一例	第41回 日本呼吸器外科学会	2024/5/31
10	渡邊 元嗣	岩国医療センターの低侵襲手術の現況	第12回 岡山呼吸器外科カンファレンス	2024/7/6
11	塩谷 俊雄	根治的化学放射線治療後の右S6区域切除に合併した術後有癭性膿胸に対するリカバリショット	第70回 中四呼吸器学会・肺癌学会	2024/7/19
12	白羽 範昭	左下葉肺癌術後の経過観察中に発症した原発不明癌の1例	第70回 中四呼吸器学会・肺癌学会	2024/7/19
13	塩谷 俊雄	続発性自然気胸におけるPNIの意義	第28回 気胸嚢胞性肺疾患学会	2024/8/30
14	白羽 範昭	特発性乳び胸を伴った気胸	第28回 気胸嚢胞性肺疾患学会	2024/8/30
15	渡邊 元嗣	気管支内再発に対する管状切除の1例	第65回 日本肺癌学会	2024/10/31
16	白羽 範昭	肺原発血管周囲類上皮細胞腫瘍の1切除例	第65回 日本肺癌学会	2024/10/31
17	渡邊 元嗣	浸潤性粘液腺癌症例の検討	第77回 日本胸部外科学会	2024/11/3
18	塩谷 俊雄	開窓術後のDead spaceに対する局所陰圧療法の工夫	第77回 日本胸部外科学会	2024/11/3
19	塩谷 俊雄	剣状突起下アプローチで行う胸腺摘出術	第129回 周南医学会	2024/11/10
20	渡邊 元嗣	腎盂癌肺転移に因る喀血の1例	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/21
21	大林 寛	限局性悪性胸膜中皮腫に対して左底区域切除を行った一例	第86回 日本臨床外科学会学術集会	2024/11/23
22	渡邊 元嗣	食道壁内発生の気管支原性嚢胞の1例	第37回 日本内視鏡外科学会	2024/12/6
23	塩谷 俊雄	後方アプローチで行うuVATS複雑区域切除術	第37回 日本内視鏡外科学会	2024/12/7
24	白羽 範昭	修練医による考える単孔式胸腔鏡手術・当院における工夫とその実際	第30回 岡山大学外科MCセミナー	2025/2/8
25	塩谷 俊雄	ビデオ提示による発表	岡山単孔式手術交流会	2025/3/8

26	白羽 範昭	胸壁合併切除を要する右上葉切除術における単孔式アプローチの応用	第34回 山口県呼吸器外科研究会	2025/3/22
27	渡邊 元嗣	指導の立場になって改めて意識したこと	第34回 山口県呼吸器外科研究会	2025/3/22

整形外科

1	守屋 真我	上腕骨骨幹部骨折に対してブロードLC-LCPプレートメタフィジアルを用いた症例報告	第143回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2024/10/4
2	田中 沙蘭	新規考案したKleinert装具は外傷性屈筋腱断裂の術後早期より良肢位を得ることができる。	第143回 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2024/10/4
3	村岡 聡介	みんなでOSGメンバーの仕事をシェアしよう Let's catch up!	第12回 OSGセミナー	2025/1/18
4	林 隆宏	当科における二次性骨折の現状	岩国大竹整形外科医会	2025/2/25

形成外科

1	濱田 龍正	軟口蓋全切除症例に対してALTパッチと咽頭弁を使用し再建を行った症例	第77回 西中国形成外科研修会	2024/8/25
2	西尾 俊彦	陰部腫瘍に甲状腺クリーゼを合併し心肺停止となった1例	第85回 中国四国形成外科学会学術集会	2024/9/8

脳神経外科

1	荻原 浩太郎	当院における脊椎脊髄センターの現状と課題	第39回 日本脊髄外科学会	2024/6/14
2	荻原 浩太郎	頸髄腹側髄膜腫の2例ー脳神経外科医の技術が求められる脊椎脊髄の手術ー	第58回 岡山大学医学部脳神経外科同門会	2024/6/16
3	柿本 昂佑樹	川崎病に合併した小児頭蓋内血管狭窄による脳梗塞の1例	第97回 日本脳神経外科学会 中国四国支部学術集会	2024/4/6
4	柿本 昂佑樹	被膜間摘出術により神経機能を温存し摘出した腕神経叢神経鞘腫の1例	第39回 日本脊髄外科学会	2024/6/13
5	田村 遼	短時間で自然再開通し、遠位塞栓を来した椎骨動脈閉塞症の一例ー初期対応についての考察ー	第138回 山口県脳神経外科談話会	2024/6/22
6	廣瀬 安章	頭蓋頸椎移行部硬膜内動静脈瘻の一例ー手術ストラテジーの検討ー	第21回 中国四国脊髄外科研究会	2024/7/13
7	柿本 昂佑樹	Developmental venous anomalyを伴う放線冠海綿状血管腫に対して内視鏡下摘出術を施行した1例	第31回 日本神経内視鏡学会	2024/11/7
8	西 和彦	当院における脳動脈瘤に対するFlow Diverter治療	周南医学会	2024/11/10
9	柿本 昂佑樹	遅発性に形態変化を来した内頸動脈瘤破裂によるくも膜下出血の1例	第40回 日本脳神経血管内治療学会学術集会	2024/11/22
10	廣瀬 安章	頭蓋頸椎移行部硬膜内動静脈瘻の一例	第98回 脳神経外科学会 中国四国支部学術集会	2024/12/7
11	柿本 昂佑樹	Os odontoideumに伴う再発性脳梗塞に対して環軸椎後方固定術を施行した1例	第22回 中国四国脊髄外科研究会	2024/12/14

12	小谷 勇人	上位頸髄腹側髄膜腫の一例	第139回 山口県脳神経外科談話会	2025/1/18
13	伊丹 尚多	山口県岩国医療圏における救急隊・病院間連携システム導入の試み	第50回 日本脳卒中学会学術集会	2025/3/7
14	柿本 昂佑樹	Os odontoideumに伴う頸椎不安定性により再発性脳梗塞を来した1例	STROKE2025	2025/3/7

心臓血管外科

1	小川 達也	感染性胸部大動脈瘤に対する当院の治療経験	第52回 日本血管外科学会総会	2024/5/30
2	前田 聖和	早期生体弁機能不全を併発した人工弁感染性心内膜炎に対する大動脈弁再置換術の一例	第125回 日本循環器学会中国地方会	2024/12/1
3	小川 達也	当院における逆行性A型急性大動脈解離に対するTEVARの治療成績	第55回 日本心臓血管外科学会学術総会	2025/2/20

皮膚科

1	池田 賢太	G-CSF・PTHrP産生胸部有棘細胞癌の一例	第292回 岡山地方会	2024/4/27
2	池田 賢太	Scalp sarcoidosisおよびSarcoidosis-lymphoma syndromeの一例	第294回 岡山地方会	2025/1/18
3	池田 賢太	原発性鎖骨下静脈血栓症(Paget-Schroetter syndrome)の一例	第39回 島根地方会	2025/3/1

泌尿器科

1	中田 哲也	前立腺癌手術歴のあるロボット支援膀胱全摘術の2例	第340回 日本泌尿器科学会岡山地方会	2024/9/21
2	中田 哲也	IDC-P成分を有するmHSPCに対する薬物療法の経験	山口県東部前立腺癌講演会	2024/10/7
3	中田 哲也	岩国医療センターでの転移性腎細胞癌に対する治療	Hiroshima RCC DiscussionSeminar	2024/12/9
4	寺本 友真	キイトルーダ/レンビマの使用経験と副作用マネジメント	腎細胞癌薬物療法セミナー	2024/8/29
5	池田 拳人	f-TUL術後に腎被膜下血腫を認めコイル塞栓術を必要とした1例	第341回 日本泌尿器科学会岡山地方会	2024/12/14
6	中田 哲也	2024年NHO岩国医療センター 手術統計	第342回 日本泌尿器科学会岡山地方会	2025/2/22

産婦人科

1	中村 一仁	乳癌発症後に妊娠が判明し、化学療法を施行しながら妊娠継続し出産へと至った一例	第76回 日本産科婦人科学会学術講演会	2024/4/19
2	栗山 千晶	帝王切開中に子宮限局型羊水塞栓症を発症したが、子宮温存に成功し、術後のMRIにて子宮筋層の浮腫を認めた1例	第76回 日本産科婦人科学会学術講演会	2024/4/19
3	花谷 智美	HBOCに対するリスク低減卵管卵巣摘出術及び乳腺外科手術の合同実施に関する当院での取り組み	第76回 日本産科婦人科学会学術講演会	2024/4/20

4	中村 一仁	妊娠初期にオラバリブを内服していたが、妊娠継続し出産に至った一例	第60回 日本周産期・新生児医学会学術集会	2024/7/13
5	花谷 智美	胎状奇胎合併を疑ったRh(D)陰性妊婦の1例	第42回 日本絨毛性疾患研究会	2024/10/18
6	杉井 裕和	地方施設での周産期管理において胎児性フィブロネクチン測定は有用か？	第17回 日本早産学会学術集会	2024/11/2
7	杉井 裕和	NIPT非実施施設における出生前検査の現状と今後の展望	第74回 広島新生児研究会	2024/11/23
8	杉井 裕和	婦人科がん診療における遺伝学的検査・診断	令和6年 山口県産婦人科医会勤務医部会研修会	2024/11/28
9	杉井 裕和	病理解剖による検体保存で確定診断に至った妊娠オウム病の一例	第41回 日本クラミジア研究会総会・学術集会	2025/2/15

耳鼻咽喉科

1	三浦 直一	篩骨洞原発NUT midline Carcinomaの1例	第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2024/5/16
2	小松原 靖聡	突発性難聴に対する2次治療としてステロイド個室内注入の予後因子に関する検討	第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	2024/5/16

救急科

1	宮内 崇	心肺停止例における最初の血液ガス分析の検討	第52回 日本救急医学会総会・学術集会	2024/10/13
2	倉田 侃太	鑑別の想起が重要であった特発性食道破裂の一例	第52回 日本救急医学会総会・学術集会	2024/10/15
3	田中 真之	診断に苦慮した特発性腎梗塞	第27回 日本臨床救急医学会総会・学術集会	2024/7/19
4	相原 一樹	開心術中に大動脈解離を発症し、術後肺水腫で呼吸管理に難渋した症例に対しRSTが介入し治療が奏功した一例	第52回 日本集中治療医学会学術集会	2025/3/16

放射線科

1	矢吹 隆行	多発外傷の一例	第85回 岡山血管造影・Interventional Radiology研究会	2024/6/29
2	矢吹 隆行	気管支動脈肺動脈瘻の一例	第37回 中国四国IVR研究会	2024/9/29
3	櫻井 淳暢	副腎を原発とする悪性リンパ腫の一例	第141回 日本医学放射線学会 中国・四国地方会	2024/12/13

麻酔科

1	市瀬 仁	高度肝機能障害患者の上肢切断術を腕神経叢ブロックと肋間上腕神経ブロックで管理した一例	日本麻酔科学会 第71回学術集会	2024/6/6
2	篠原 紫乃	消化器外科術後せん妄の発生頻度;セボフルラン麻酔とデスフルラン麻酔の比較	日本麻酔科学会 第71回学術集会	2024/6/7
3	相原 一輝	大動脈弁置換術の人工心肺離脱後に発症した上行大動脈解離の診断に経食道心エコーが有用であった一例	日本麻酔科学会 中国・四国支部第61回学術集会	2024/9/14

薬剤部

1	武良 卓哉	がん薬物治療の副作用対策について ～悪心嘔吐対策を含む～	薬剤師連携セミナーin岩国	2024/7/25
2	前岡 遼祐	オキサリプラチンによる末梢神経障害発現に及ぼすプロトンポンプ阻害薬の影響について	第62回 中国四国地区国立病院 薬学研究会	2024/9/7
3	小倉 千奈	制吐薬適正使用ガイドライン第3版の作成に携わって	第62回 中国四国地区国立病院 薬学研究会	2024/9/8
4	荒神 一博	DMAT活動報告	第62回 中国四国地区国立病院 薬学研究会	2024/9/8
5	田中 暁子	疼痛緩和を考える ～実際の症例を通して～	薬剤師連携セミナーin岩国	2024/12/17
6	池田 雛子	心不全患者における当院での取り組み	薬剤師連携セミナーin岩国	2025/3/6

放射線科(技師)

1	一ノ瀬 拓実	モニター管理 ～医用画像表示用モニタの品質管理に関するガイドライン～	広島県医療情報技師会 第1回画像部会セミナー ～「知らない」から始める医用画像情報の基礎～	2024/8/10
2	下岡 亮太	当院におけるWATCHMANデバイスを用いた左心耳閉鎖術	国立病院機構中国四国放射線技師合同モダリティ勉強会	2024/12/7
3	一ノ瀬 拓実	デジタルネイティブが放射線科システムを仕切るとどうなる？	日本医用画像情報専門技師会主催セミナー	2024/12/21
4	竹内 紗羅	ポータブル撮影における医療安全について	令和6年度 第1回岩国地域講習会	2025/1/23
5	八木 駿明	当院の静脈路確保について	令和6年度 第1回岩国地域講習会	2025/1/23
6	灘 尊則	国立病院機構中国四国放射線技師会でのSTAT画像所見報告への取り組み	公益社団法人 広島県診療放射線技師会 令和6年度 呉支部研修会	2025/2/19
7	一ノ瀬 拓実	システムリプレイス報告	国立病院機構中国四国放射線技師会 第5回 医療情報勉強会	2025/3/4

リハビリテーション科

1	田坂 優騎	右大腿骨遠位端解放骨折術後に右膝関節可動域の改善に難渋し、関節鏡視下授動術を施行した症例	第37回 中国ブロック理学療法士学会	2024/9/8
2	洲川 朋代	ジェスチャーを交えた代償行動により意思伝達した重度Broca失語の1例	第48回 日本高次脳機能学会学術総会	2024/11/8

栄養管理室

1	藤田 真奈	褥瘡ラウンドにおける管理栄養士の関り ～1症例を通じて～	令和6年度 中国四国国立病院管理栄養士協議会総会	2024/8/4
2	川藤 早也香	肺癌術後患者に中鎖脂肪酸(MCT)食を提供し乳糜胸水が改善した一例	第78回 病院総合医学会	2024/10/18
3	竹中 理恵	当院のカテーテルアブレーション治療患者における塩分チェックシートと背景因子の関連について	第40回 栄養治療学会学術集会	2025/2/15

看護部

1	上成 敏爾	当院のSSIサーベイランスの結果とその考察	第39回 日本環境感染学会総会・学術集会	2024/7/26
2	上成 敏爾	地域の高齢者等施設ラウンドから見えてきた課題～施設ラウンド時のポイント～	第39回 日本環境感染学会総会・学術集会	2024/7/27
3	上成 敏爾	感染対策向上加算にかかる地域連携の取り組みと課題～診療報酬改定に伴う2年間の活動を振り返って～	第78回 国立病院総合医学会	2024/10/19
4	平木 和宏	当院の褥瘡回診担当医師不在時の褥瘡回診での取り組みの有効性・安全性の検討	第26回 日本褥瘡学会学術集会	2024/9/7
5	平田 祐太郎	岩国医療センターにおける災害対応策	第52回 日本集中治療医学会学術集会	2025/3/14
6	平田 祐太郎	これまで主科からクレームなし！RRS導入2年目となる当院RRSの実績と特徴について	第52回 日本集中治療医学会学術集会	2025/3/15
7	本田 双葉	化学療法副作用により終末期に移行した患者への心理的ケア	第58回 山口県緩和ケア研究会	2024/4/21
8	宮本 佐知子	多職種連携により在宅療養を望んだがん終末期患者の希望を支えた一例	第33回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	2024/5/26
9	上田 佳奈	A施設の看護師のがん看護に関する困難感の変化	第29回 日本緩和医療学会学術大会 第37回 日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術集会	2024/6/15
10	上田 佳奈	がん相談支援センターの利用者の傾向	第25回 日本赤十字看護学会学術集会	2024/7/23
11	上村 奈々	救急医療に勤務する新人看護師の成長に影響を及ぼす関わり－ストレスとワーク・モチベーションに着目して－	第20回 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会	2024/9/7
12	柏村 佳菜	小児患児の点滴固定方法の検討－刺入部の観察が容易な固定方法の安全性と有用性について－	第78回 国立病院総合医学会	2024/10/19
13	辻 佳菜子	当院における高流量鼻カヌー酸素療法フローチャート作成－使用例を用いた症例検討－	第22回 国立病院看護研究学会学術集会	2024/12/7

心理療法士

1	芥川 亘	STAS-Jと心理療法士の介入の関連性の検討	第29回 日本緩和医療学会学術大会 第37回 日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会	2024/6/15
---	------	------------------------	---	-----------

診療情報管理士

1	花岡 ちか子	COVID-19流行前後の胃がん・大腸がんの病期変化の検証～検診受診率・発見経緯からの検証～	第50回 日本診療情報管理学会学術大会	2024/8/22
---	--------	--	---------------------	-----------

地域医療連携室

1	竹森 佳代子	超高齢救急患者の退院支援の現状と課題－救急外来担当MSWが過去3年分のケースを振り返り感じたこと	第78回 国立病院総合医学会	2024/10/18
---	--------	--	----------------	------------

3.特定臨床研究一覧

呼吸器内科

1	HeaT ON BeAT	EGFR遺伝子変異陽性 再発・進行非小細胞肺癌患者対象のAfinitinibまたはOsimertinibを一次治療とした無作為化非盲検第Ⅱ相試験	帝京大学医学部附属病院 内科学講座	久山 彰一
2	OLCSG 2002 EPAS試験	71歳以上の化学療法未治療進展型小細胞肺癌患者を対象とした、カルボプラチン、エトポシド、アテゾリズマブの併用投与（CBDCA/ETP/Atezo療法）の有効性及び安全性を検討する国内第Ⅱ相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
3	TORG1938 EPONA study	中枢神経系への転移を有するEGFR 遺伝子変異陽性の患者でオシメルチニブが無効となった患者に対して、白金製剤+ペメトレキセドと白金製剤+ペメトレキセド+オシメルチニブの比較試験	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	久山 彰一
4	LOGIK2002 RESTART	腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第Ⅱ相試験	九州大学病院呼吸器科	久山 彰一
5	NHO-Pembro- NSCLC	PD-L1発現50%以上の非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ単剤とペムブロリズマブ+カルボプラチン+ペメトレキセド併用療法のランダム化第3相試験	名古屋医療センター 呼吸器内科・腫瘍内科	久山 彰一
6	RELAY Effusion	胸水合併EGFR遺伝子変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブの単群第Ⅱ相試験-RELAY-Effusion-	大阪公立大学医学部附属病院 呼吸器内科	久山 彰一
7	免疫グロブリン療法 (IVIg)	特発性肺線維症急性増悪における免疫グロブリン療法の有効性の検討	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
8	LOGIK2102 (FINE TUNE)	TTF-1陰性の進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第Ⅱ相試験	九州大学病院呼吸器科	久山 彰一
9	OLCSG 2101 (GJG-trial)	パクリタキセルを含む化学療法における化学療法誘発性末梢神経障害に対する牛車腎気丸の予防投与の有効性を検討する非盲検無作為化第Ⅱ相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
10	LOGIK2301 (RELIANCE)	高齢者完全切除Ⅱ/Ⅲ 期非小細胞肺癌に対するAtezolizumab術後補助療法の臨床第Ⅱ 相試験	北九州市立医療センター 呼吸器外科	久山 彰一
11	LOGIK2201 (BRAVES study)	脳転移を有するALK陽性進行非小細胞肺癌に対するブリグチニブの第Ⅱ相試験	北里大学病院 呼吸器内科	久山 彰一
12	OLCSG2401 (Platinum-Revival trial)	複合免疫療法（プラチナ併用療法+免疫チェックポイント阻害薬）既治療進行非小細胞肺癌患者を対象とした、二次治療におけるプラチナ併用療法（再投与）の有効性及び安全性を検討する第Ⅱ相試験	岡山大学病院 ゲノム医療 総合推進センター	久山 彰一

循環器内科

1	STOPDAPT-2 ACS	急性冠症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤 2 剤併用療法（DAPT）期間を 1 ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究	京都大学大学院 医学研究科	片山 祐介
2	OPTIVUS	OPTIVUS-Complex PCI : Optimal Intravascular Ultrasound Guided Complex Percutaneous Coronary Intervention study （至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究）	京都大学大学院 医学研究科	片山 祐介
3	GOREISAN-HF	うっ血性心不全（心性浮腫）患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究	一般財団法人 生産開発科学 研究所	川本 健治

消化器内科

1	cAIM study	インジゴカルミンと酢酸インジゴカルミン混合液(AIM)の右側結腸の大腸鋸歯状病変診断における有用性を探索する多施設共同オープンラベル単盲検ランダム化並行群間比較試験	岡山大学病院 光学医療診療部	田中 彰一
2	J-FAPP Study V	家族性大腸腺腫症患者への低用量アスピリンによる単一介入臨床試験	京都府立医科大学付属病院 消化器内科	田中屋 宏爾
3	BRAVE study	高度肝門部悪性胆管狭窄に対する金属ステントを用いた両葉2領域と3領域ドレナージの多施設共同無作為化比較試験	岡山大学病院 光学医療診療部	石原 裕基

産婦人科

1	PPP Trial	プロバイオティクスの自然早産予防効果を評価する多施設共同オープンラベル試験	富山大学 産科婦人科医局	杉井 裕和
---	-----------	---------------------------------------	--------------	-------

4.臨床研究一覧

呼吸器内科

1	LC-SCRUM-Advantage/MRD	肺癌における周術期個別化医療の確立を目指した遺伝子スクリーニングと微小残存病変のモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山 彰一
2	LC-SCRUM-Asia（第5期）	アジアにおける肺癌個別化医療の確立を目指したゲノムスクリーニング研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山 彰一
3	LC-SCRUM-TRY	非小細胞肺癌における薬物治療耐性後の個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山 彰一
4	SCRUM-Japan Regisrty	SCRUM-Japan疾患レジストリを活用した新薬承認審査時の治験対照群データ作成のための前向き多施設共同研究	国立がん研究センター東病院	久山 彰一
5	CS-Lung Rare	希少な呼吸器疾患の診療実態及び治療の有用性を明らかにするための前向き観察研究	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
6	DILD-FeNO	薬剤性肺障害の診断や予後予測とFeNOの相関性の解析	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
7	リフヌア	間質性肺疾患に伴う難治性の慢性咳嗽に対するゲーファビキサントの有効性と安全性の検討	岡山大学病院	久山 彰一
8	R5-NHO(癌呼)-01（腸内細菌叢）	肺癌を対象としたDeep learningによる腸内細菌叢に着目した革新的癌免疫療法効果予測システムの確立	国立病院機構九州がんセンター	久山 彰一
9	NivoLuminate	切除可能な非小細胞肺癌を対象とした術前補助療法としてのニボルマブおよび化学療法併用療法の日本における治療実態、安全性および有効性に関する観察研究	イービーエス株式会社 リアルワールドエビデンス事業本部 臨床研究センター	久山 彰一
10	Clinical remission	Clinical remission達成後の喘息患者における生物学的製剤中止についての前向き観察研究	岡山大学病院	久山 彰一
11	IL-6	非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬投与前の血清インターロイキン6値と免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象発現を検討するための前向き観察研究	岩国医療センター 呼吸器内科	久山 彰一
12	ALK後ろ向き	ALK融合遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における早期耐性患者の特徴を明らかにするための後ろ向きコホート研究	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	田村 朋季
13	EGFR早期耐性	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるオシメルチニブ早期耐性、長期奏効患者の特徴を明らかにするための後ろ向きコホート研究	岡山大学病院	久山 彰一
14	CS-Lung 006	EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対するオシメルチニブ後のエルロチニブ＋ラムシルマブ療法の有効性をreal world dataを用いて検証する多施設共同後ろ向き観察研究	JA尾道総合病院 呼吸器内科	久山 彰一
15	NEJ066試験	化学放射線療法＋デュルバルマブ地固め療法後に再発した非小細胞肺癌に対する免疫複合療法の有効性に関する多施設後方視的検討	日本医科大学付属病院 呼吸器内科	久山 彰一

循環器内科

1	POSEIDON	アテローム動脈硬化性心血管疾患及び心不全患者における全身性炎症の有病率	IQVIAサービシズジャパン合同会社	片山 祐介
2	CASTLE長期観察研究	CASTLE試験の長期的な臨床結果を収集・評価するための観察研究	東邦大学医療センター 大橋病院 循環器内科	片山 祐介

胸部外科

1	肺音解析 (AMED)	肺音解析を用いた非侵襲で簡便な胸膜癒着の判別方法開発の検討	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 医療AIプロジェクト	渡邊 元嗣
2	肺癌登録合同委員会 第10次事業	2017年に外科治療を施行された肺癌症例のデータベース研究: 肺癌登録合同委員会 第10次事業	国立がん研究センター中央病院 呼吸器外科	渡邊 元嗣
3	NLR研究 (R6-EBM(癌呼)-01)	肺癌術前の待機期間における炎症・免疫バランスの変化が術後の短期・長期予後にあたえる影響の評価	東広島医療センター	渡邊 元嗣

全科共通

1	肺炎桿菌	肺炎桿菌と溶血性レンサ球菌の薬剤耐性、病原性、及び関連患者予後因子に関する全国サーベイランス	国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター	守分 正
2	ANTARES study	COVID-19外来患者を対象としたレジストリ研究	IQVIAサービシーズ ジャパン合同会社	久山 彰一

5.院内研究一覧

1	抗血栓剤内服中の早期胃がん症例に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)後出血予防のためのESD後潰瘍閉鎖法に関する研究	消化器内科	田中 彰一
2	当院にて植込型心電計(ILR)を植込んだ患者の結果を解析する。	循環器内科	越智 正彦
3	当院にて初回経皮的冠動脈形成術(PCI)を受けた90歳以上の超高齢者に、CONUT scoreを用いて予後を検討する。	循環器内科	越智 正彦
4	Very high - power very short-duration(vHDvSD)による肺静脈隔離の成績評価(有効性と安全性)	循環器内科	和田 匡史
5	遅房室伝導(slow pathway)の順行伝導同定の試み	循環器内科	和田 匡史
6	膵頭十二指腸切除後胆管炎に対する至適抗生剤の選択	外科	梶岡 裕紀
7	Complete critical view of safetyによる腹腔鏡下胆嚢摘出術の安全性と有用性	外科	梶岡 裕紀
8	ICG蛍光法を用いた胆管血流評価による胆管狭窄の予防	外科	梶岡 裕紀
9	術前に胆管炎発症後に膵頭十二指腸切除を行った症例に対する至適周期抗生剤の選択	外科	梶岡 裕紀
10	StageIA肺癌手術症例における術前呼吸機能と術後予後の検討	胸部外科	渡邊 元嗣
11	Robot-Assisted Thoracoscopic Surgery (RATS)導入の検討	胸部外科	渡邊 元嗣
12	呼吸器外科領域における希少疾患の症例報告	胸部外科	渡邊 元嗣
13	膵切除における亜鉛値の変動と膵機能の推移に関する研究	外科	青木 秀樹
14	膵切除後の脂肪肝および膵性糖尿病と膵管径を含む膵容積の変化との関連に関する研究	外科	青木 秀樹
15	再発小細胞肺癌に対するアムルピシン塩酸塩療法における重篤な好中球減少症の発生病因の検証に関する後方視的多施設共同研究	薬剤部	武良 卓哉
16	大腸癌低侵襲手術の有用性についての検討	外科	谷口 文崇
17	大腸がんなどの分子遺伝プロファイルに関する研究	外科	谷口 文崇
18	遺伝性腫瘍のサーベイランスに関する研究	外科	田中屋 宏爾
19	様々な遺伝性疾患のカウンセリング体制構築に関する研究	外科	田中屋 宏爾
20	リンチ症候群の拾い上げと臨床病理学的特徴の解析	外科	田中屋 宏爾
21	左脚エリアーピングによる心機能の評価	循環器内科	松尾 啓太
22	進行胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討	外科	渡邊 めぐみ

23	ロボット支援胃癌手術の導入	外科	渡邊 めぐみ
24	食道胃接合部癌に対する至適術式の検討	外科	渡邊 めぐみ
25	高齢者に対する至適手術手技と合併症に関する検討	外科	小川 俊博
26	ドライボックス導入と腹腔鏡／ロボット手術トレーニングに関する検討	外科	小川 俊博
27	開窓術後の新規治療戦略における有効性の検討	胸部外科	塩谷 俊雄
28	急性膿胸手術症例における予後栄養指数の有用性に関する検討	胸部外科	塩谷 俊雄
29	高齢者気胸におけるPrognostic nutritional indexおよび大腰筋量の検討	胸部外科	塩谷 俊雄
30	日本人家族性腺腫性ポリポージス患者における甲状腺癌	外科	三宅 英輝
31	高齢者大腸癌に対する臨床成績の検討	外科	三宅 英輝
32	気管切開下陽圧換気を使用している神経筋疾患患者のMIE exsufflation flowsに影響を及ぼす因子	リハビリテーション科	佐藤 善信
33	気管切開下陽圧換気を使用している神経筋疾患患者の肺と胸郭の拡張性に与える深吸気療法の効果	リハビリテーション科	佐藤 善信
34	岩国医療センターにおける急性期脳卒中治療の現状分析	脳神経外科	伊丹 尚多
35	令和6年度看護研究5題	看護部	長福 明美
36	大腿骨骨幹部骨折による内固定術後の膝関節屈曲可動域に影響する要因	リハビリテーション科	田坂 優騎
37	抗菌薬使用動向と耐性菌分離率並びに分離株の性状に関する調査研究	薬剤部	前田 龍人

6.治験等

治験

	研究課題名	委託者	診療科
1	転移性非小細胞肺癌(NSCLC)患者に対する一次治療においてデュルバルマブ単剤又はデュルバルマブ+トレメリムマブに白金製剤を含む化学療法を併用した場合の有効性を検討する第Ⅲ相無作為化非盲検国際多施設共同比較試験(POSEIDON)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
2	同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌(ステージⅠ～Ⅲ)の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブ+トレメリムマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験(ADRIATIC)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
3	ステージⅡ及びⅢの切除可能非小細胞肺癌患者に対する治療として、ネオアジュバント/アジュバント療法におけるデュルバルマブ投与を評価する第Ⅲ相二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験(AEGEAN)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
4	KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験	アムジェン株式会社	呼吸器内科
5	左室駆出率40%以上の心不全患者(NYHA心機能分類Ⅱ～Ⅳ度)における罹患率及び死亡率に関して、finerenoneの有効性及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験	バイエル薬品株式会社	循環器内科
6	上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療におけるプラチナ製剤+ペメトレキセドの併用又は非併用下でオシメルチニブの有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相非盲検無作為化試験(FLAURA2)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
7	EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのAmivantamab とLazertinib の併用、オシメルチニブ、及びLazertinib を比較する第3 相ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
8	オシメルチニブが無効となったEGFR変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてアミバンタマブ及びlazertinibとプラチナ製剤を含む化学療法の併用とプラチナ製剤を含む化学療法を比較する第3相、非盲検、ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
9	Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のない PD-L1 高発現(TPS が 50%以上)の進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象とした Dato-DXd 及びベムプロリズマブ併用療法とベムプロリズマブ単剤療法を比較する無作為化非盲検第Ⅲ相試験(Tropion-Lung08)	第一三共株式会社	呼吸器内科
10	JR-142の小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象とした第Ⅱ相試験の継続投与試験	JCRファーマ株式会社	小児科
11	HERTHENA-Lung02: 上皮成長因子受容体(EGFR)チロシンキナーゼ阻害剤(TKI)療法が奏効しなかった転移性又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性(EGFRm)非小細胞肺癌(NSCLC)を対象としたバトリツマブデルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第Ⅲ相無作為化非盲検試験	第一三共株式会社	呼吸器内科
12	左室駆出率が40%超の心不全患者にAZD4831 を48 週間まで投与したときの有効性及び安全性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同後期第2 相及び第3 相連続試験	アストラゼネカ株式会社	循環器内科
13	Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1 TPS50%未満の進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象としたDatopotamab Deruxtecan(Dato-DXd)とベムプロリズマブの併用療法(プラチナ製剤化学療法との併用又は非併用)を検討する無作為化第Ⅲ相試験(TROPION-Lung07)	第一三共株式会社	呼吸器内科
14	OPC-131461 の心性浮腫(うっ血性心不全)に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験	大塚製薬株式会社	循環器内科
15	オシメルチニブ投与中に進行したEGFR変異陽性でMET過剰発現及び／又は増幅を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にsavolitinibとオシメルチニブの併用療法と白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第Ⅲ相無作為化非盲検試験(SAFFRON)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
16	治療抵抗性肺Mycobacterium avium Complex症患者を対象としてEpetraborole経口投与の有効性、安全性及び薬物動態を評価する第2/3相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同 前向き試験(MACrO2)	メドベイス・ジャパン株式会社	呼吸器内科
17	複雑性尿路感染症又は急性単純性腎盂腎炎成人患者を対象としたセフェビム/nacubactam又はアズトレオナム/nacubactam併用投与時の有効性、及び安全性の評価を目的としたイミベナム/シラスタチン対照多施設共同無作為化二重盲検比較試験(第Ⅲ相)	Meiji Seikaファルマ株式会社	泌尿器科
18	HERMES: 全身性の炎症を伴う左室駆出率が軽度低下又は保たれた心不全患者を対象とした、罹患率及び死亡率に対するプラセボと比較したzilitivekimabの効果	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社	循環器内科
19	転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、SB27(ベムプロリズマブのバイオ後続品候補)とキイトルーダの有効性、安全性、薬物動態及び免疫原性を比較する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検、多施設共同試験	Fortrea Japan株式会社	呼吸器内科

20	Uncommon EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者を対象としたアファチニブ投与における DFP-14323 を併用した際の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験	Delta-Fly Pharma 株式会社	呼吸器内科
21	腎機能障害を伴う心不全患者を対象に、心不全イベント及び心血管死のリスクに対するbalcinenone／ダバグリフロジン配合剤の効果をダバグリフロジンと比較して評価する第Ⅲ相、ランダム化、二重盲検試験 (BalanceD-HF)	アストラゼネカ株式会社	循環器内科
22	オシメルチニブ投与中に進行したEGFR変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブ併用／非併用下でのDato- DXdと白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第Ⅲ相非盲検 (治験依頼者盲検) 無作為化試験 (TROPION-Lung15試験)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
23	化学放射線療法後に疾患進行が認められない限局型小細胞肺癌患者を対象とした地固め療法としてのToripalimab単剤療法又はToripalimab＋Tifcemalimab併用療法 (JS004/TAB004)に関するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多地域共同第Ⅲ相臨床試験	Shanghai Junshi Biosciences Co., Ltd.	呼吸器内科
24	小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象にグロウジェットの連続投与に対するJR-142の週1回投与の非劣性検証並びに有効性及び安全性を比較評価する、非盲検、他施設共同、無作為化、並行群間比較、第Ⅲ相試験	JCRファーマ株式会社	小児科
25	EASi-HF - 左室駆出率 (LVEF) が40%以上の症候性心不全 (HF: NYHA Ⅱ～Ⅳ) 患者を対象に、BI 690517とエンバグリフロジンを併用経口投与したときの有効性及び安全性をプラセボ及びエンバグリフロジンと比較して評価する第Ⅲ相、二重盲検、無作為化、並行群間比較、優越性検証試験	Boehringer Ingelheim International GmbH.	循環器内科
26	ctDNA陽性又は高リスクの病理学的特徴を有するステージⅡ非小細胞肺癌患者を対象に、腫瘍完全切除後の術後補助療法としてのダトボタマブ デルクステカン (Dato-DXd) とRilvegostomigの併用療法又はRilvegostomig単剤療法と標準治療を比較する第Ⅲ相非盲検ランダム化国際共同試験 (TROPION-Lung12)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
27	KRAS G12C変異を有する進行非小細胞肺癌患者を対象としたAdagrasibの単剤投与及びベムプロリズマブとの併用投与の第2相試験並びにAdagrasibとベムプロリズマブの併用投与をベムプロリズマブと比較する第3相試験	プリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社	呼吸器内科

特定使用成績調査

	研究課題名	委託者	診療科
1	オブスミット錠10mg特定使用成績調査(長期使用)	アクテリオンファーマシューティカルズジャパン株式会社	循環器内科
2	ブラレント特定使用成績調査	サノフィ株式会社	循環器内科
3	ザーコリカプセル特定使用成績調査 ーROS1融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌に対する調査ー	ファイザー株式会社	呼吸器内科
4	ファセンラ皮下注30mgシリンジ特定使用成績調査(長期)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
5	ローブレナ錠特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
6	エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査 -乳癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討-	第一三共株式会社	外科
7	ビジンプロ錠 特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
8	エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査 -胃癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討-	第一三共株式会社	外科
9	ベネクレクタ®錠 特定使用成績調査 ー急性骨髄性白血病を対象とした全例調査ー	アッヴィ合同会社	血液内科
10	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質: 非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	呼吸器内科
11	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質: 非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	消化器内科
12	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質: 非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	外科
13	「ダラキユーロ配合皮下注」に関する特定使用成績調査	ヤンセンファーマ株式会社	血液内科
14	ルマケラス特定使用成績調査(全例調査)	アムジェン株式会社	呼吸器内科
15	ビヴラツツ点滴静注液150mg 特定使用成績調査(長期観察)	イドルシアファーマシューティカルズ ジャパン株式会社	脳神経外科

16	エジャイモ点滴静注1.1g特定使用成績調査<寒冷疑集素症患者>	サノフィ株式会社	血液内科
17	クリスピータ皮下注 特定使用成績調査 —FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症患者の長期使用に関する調査—	協和キリン株式会社	小児科
18	リンヴォック錠 特定使用成績調査-中等症から重症の潰瘍性大腸炎を対象とした安全性及び有効性に関する調査—	アッヴィ合同会社	消化器内科
19	イジウド点滴静注25mg イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査(全例調査)	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
20	潰瘍性大腸炎患者を対象としたジセラカ錠特定使用成績調査	エーザイ株式会社	消化器内科
21	コセルゴ®特定使用成績調査 神経線維腫症1型における叢状神経線維腫に関する全例調査	アレクシオンファーマ合同会社	小児科
22	リンヴォック®錠 特定使用成績調査 —中等症から重症の活動期クローン病を対象とした安全性及び有効性に関する調査—	アッヴィ合同会社	消化器内科
23	日本人RET融合遺伝子陽性甲状腺癌又はRET遺伝子変異陽性MTC患者を対象としたセルベルカチニブ特定使用成績調査(全例調査)	日本イーライリリー株式会社	耳鼻いんこう科
24	エンハーツ点滴静注用 特定使用成績調査 - 肺癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討 -	第一三共株式会社	呼吸器内科
25	フィンテプラ内用液2.2mg/mL 特定使用成績調査	日本新薬株式会社	小児科

使用成績調査

	研究課題名	委託者	診療科
1	ビミジム点滴静注液5mg使用成績調査	バイオマリンファーマシューティカル ジャパン株式会社	小児科
2	サムスカ 一般使用成績調査(SIADHにおける低ナトリウム血症)	大塚製薬株式会社	呼吸器内科
3	ハーセプチン®注射用60、同150一般使用成績調査 —HER2陽性の根治切除不能な進行・再発の唾液腺癌—	中外製薬株式会社	耳鼻いんこう科
4	脊椎内固定器具「Associa ZiQueスパイナルシステム」の使用成績調査	京セラ株式会社	整形外科
5	アルンブリグ錠一般使用成績調査「非小細胞肺癌」	武田薬品工業株式会社	呼吸器内科
6	ミダフレッサ静注0.1%一般使用成績調査	アルフレッサファーマ株式会社	脳神経外科
7	オブジーボ®一般使用成績調査(原発不明癌)	ブリistolマイヤーズ・スクイブ株式会 社	呼吸器内科
8	ラパリルス錠1 mg(難治性リンパ管疾患)一般使用成績調査(全例調査)	ノーベルファーマ株式会社	整形外科
9	オンデキサ静注200mg 一般使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	脳神経外科
10	ジェセリ錠40mg一般使用成績調査(全例調査)	大鵬薬品工業株式会社	消化器内科
11	ボックスゾゴ®皮下注用0.4 mg/0.56 mg/1.2 mg 使用成績調査 軟骨無形成症 患者における長期安全性及び有効性	BioMarin Pharmaceutical Japan株式会 社	小児科
12	コラテジェン初回投与12カ月後までの安全性に関する一般使用成績調査	田辺三菱製薬株式会社	循環器内科
13	リムバーザ錠100mg、150mg BRCA 遺伝子変異陽性かつHER2 陰性で 再発高リスクの乳癌患者における術後薬物療法を対象とした一般使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	外科

副作用報告

	研究課題名	委託者	診療科
1	リクシアナ錠に対する副作用報告の詳細調査	第一三共株式会社	循環器内科

その他の研究

	研究課題名	委託者	診療科
1	APACERAM for PPS および PSV スパイナルシステムの操作性と併用使用の術後 成績調査	HOYA Technosurgical株式会社	整形外科

編集後記

病院年報が完成しましたので、皆様にお届けいたします。2024年度の当院の活動を振り返り、その成果をまとめることができましたことを大変嬉しく思います。

昨今、医療を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、当院においても経営状況の厳しさを肌で感じる一年となりました。物価や人件費の上昇、医療材料費の増大に加え、地域医療体制の変革や働き方改革の影響も相まって、病院運営はこれまで以上に効率化と工夫が求められています。医療の質を維持しながら安定した運営を続けるため、組織全体での取り組みが不可欠であることを改めて実感する年度でもありました。

そのような状況下でも、各診療科の努力によって診療活動は非常に活発であり、学会発表や研究活動も充実した一年となりました。日々の臨床の積み重ねが、患者さんへよりよい医療を届ける大切な基盤となっていることを感じております。

新しい年報を通じて、当院の歩みを少しでもお伝えできれば幸いです。来年度も、変わりゆく医療環境の中で、より良い病院づくりを目指して取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構岩国医療センター
臨床研究部長 久山 彰一